

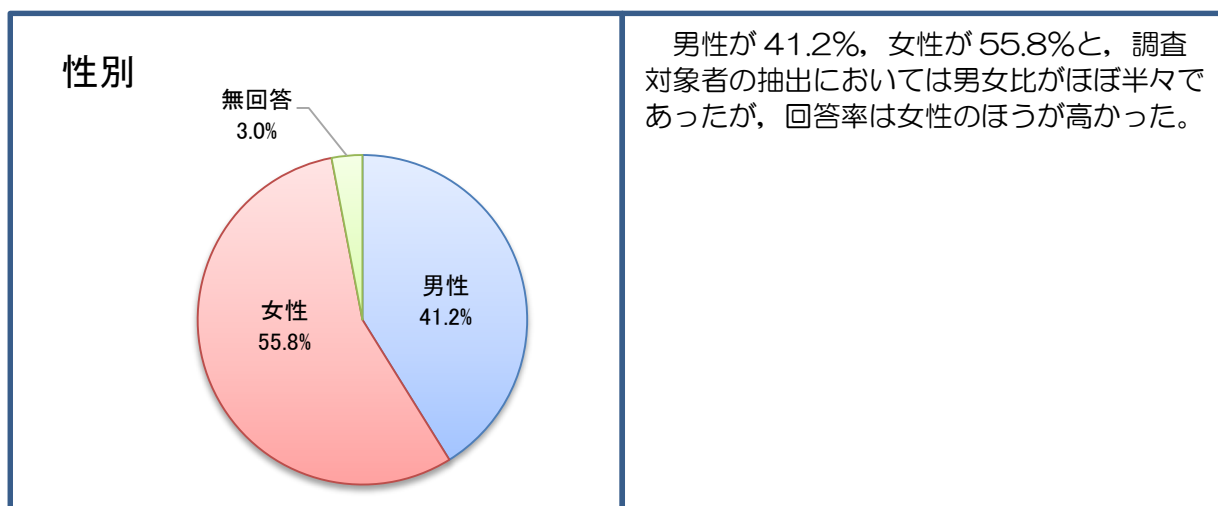
# 男女共同参画に関するアンケート調査結果報告書

## 0 調査対象者の属性

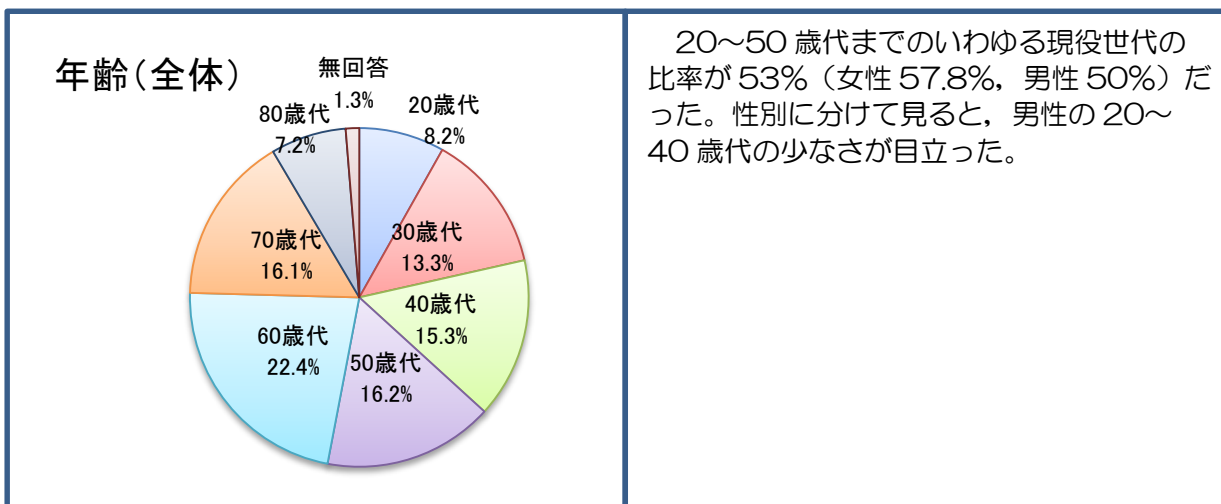
### ■調査のあらまし

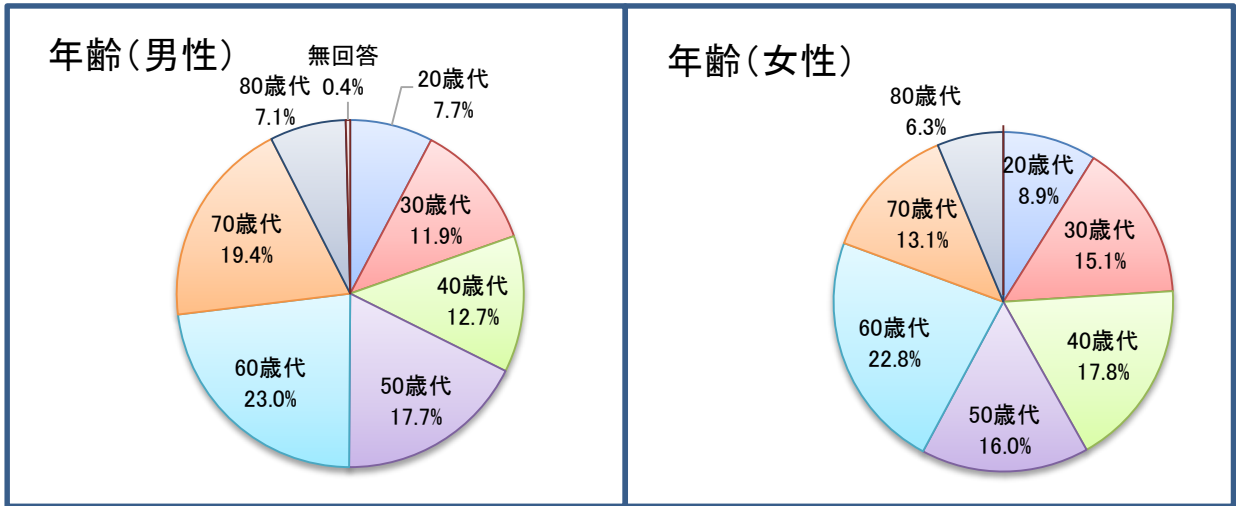
調査の目的	次期男女共同参画基本計画を社会情勢の変化に対応した新しい計画とするための貴重な資料として活用するため。
調査の対象	市内に居住する満 20 歳以上の男女 3,000 人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送による配布及び回収
調査期間	平成 26 年 2 月 12 日～2 月 28 日
有効回答数	1,164 件（回収率 38.8%）

### ■性別

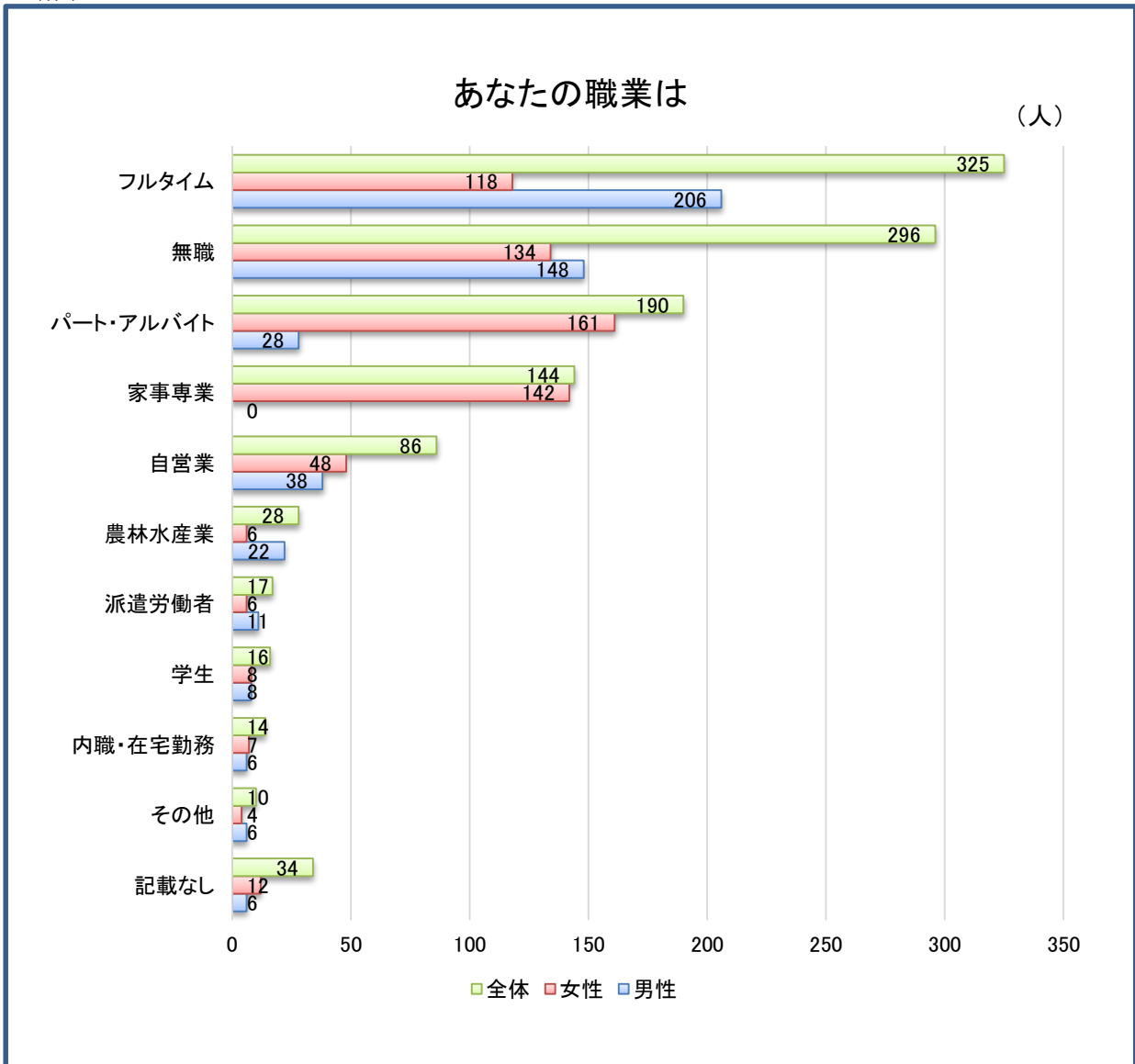


### ■年齢

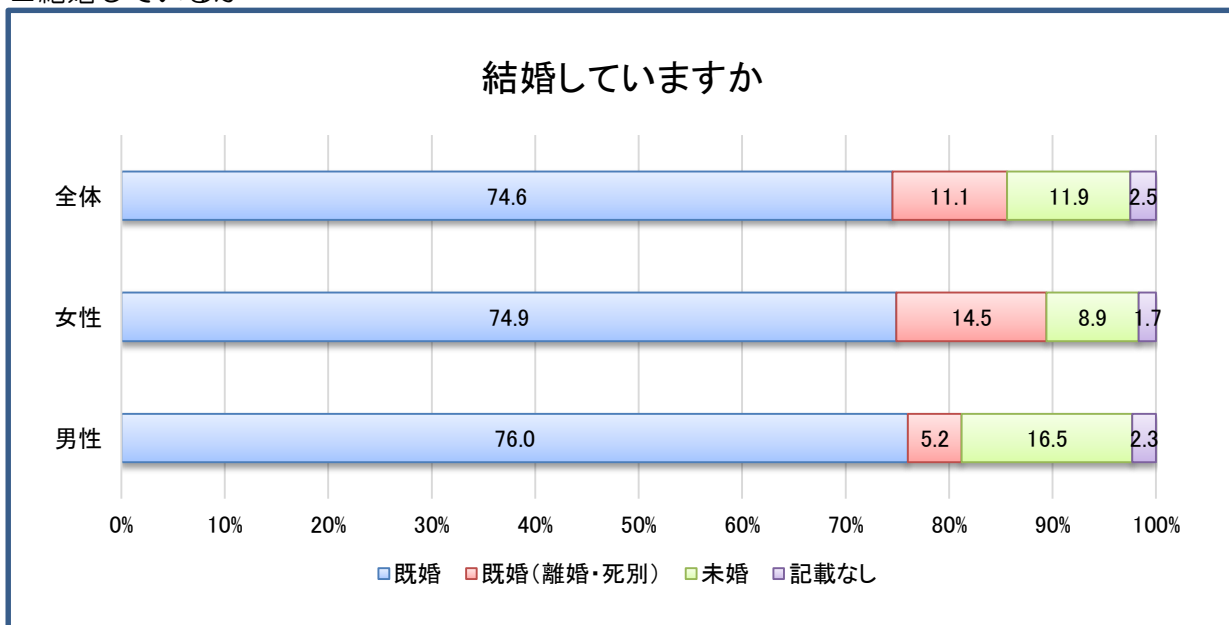




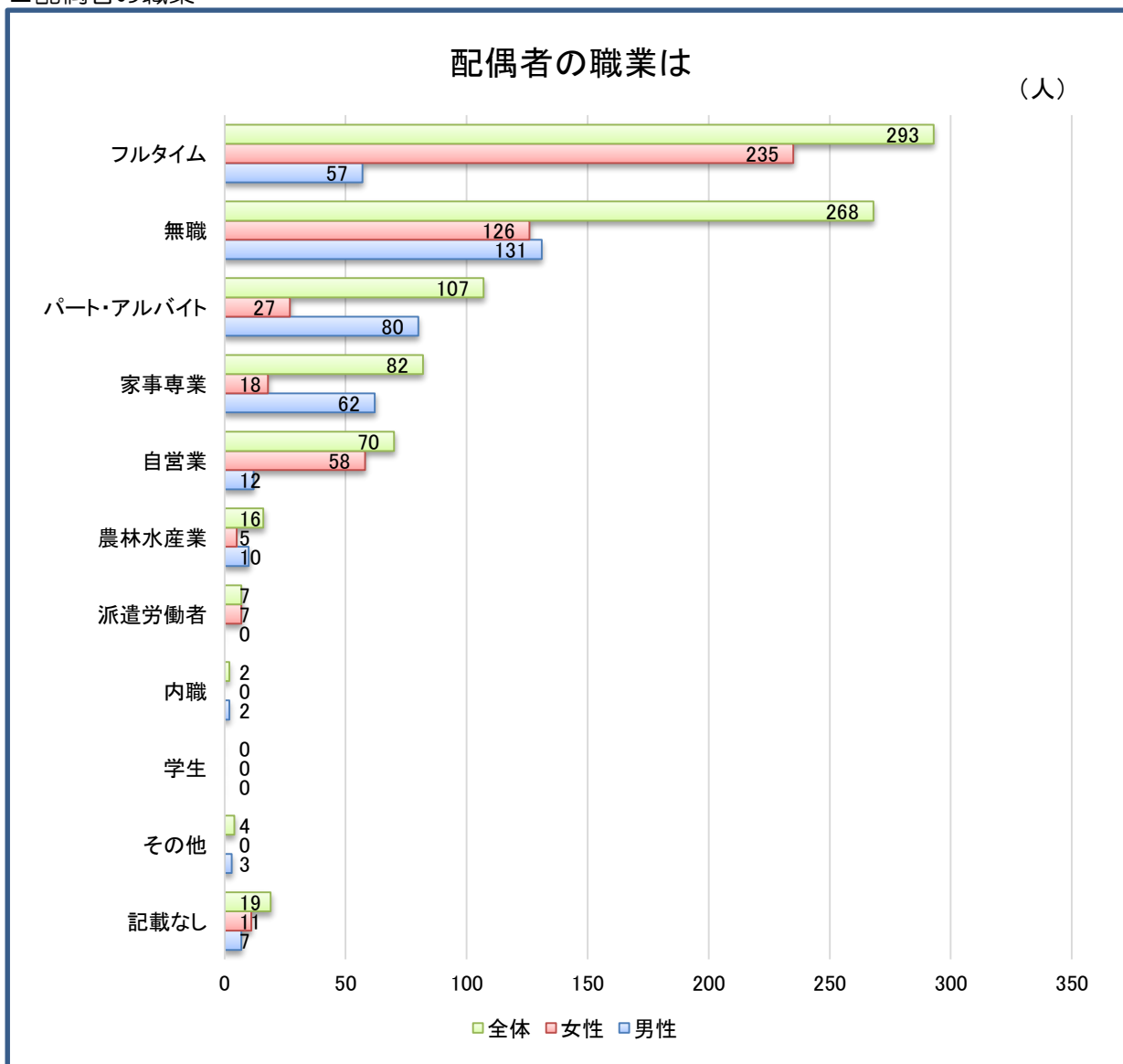
■ 職業



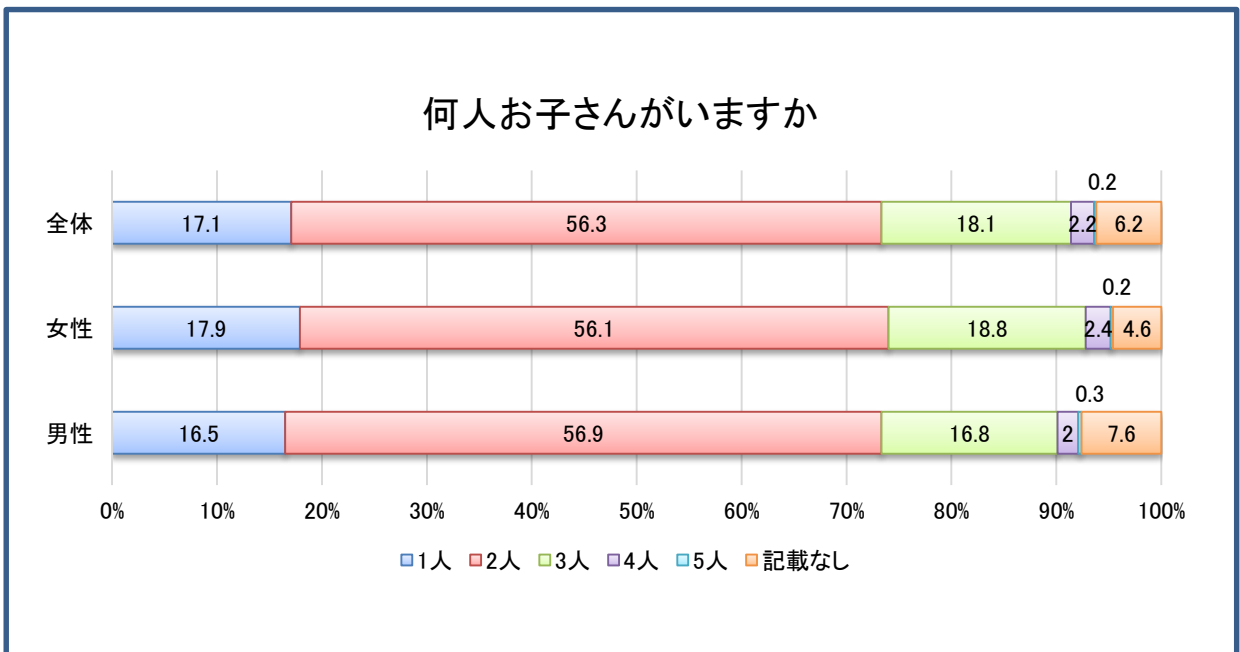
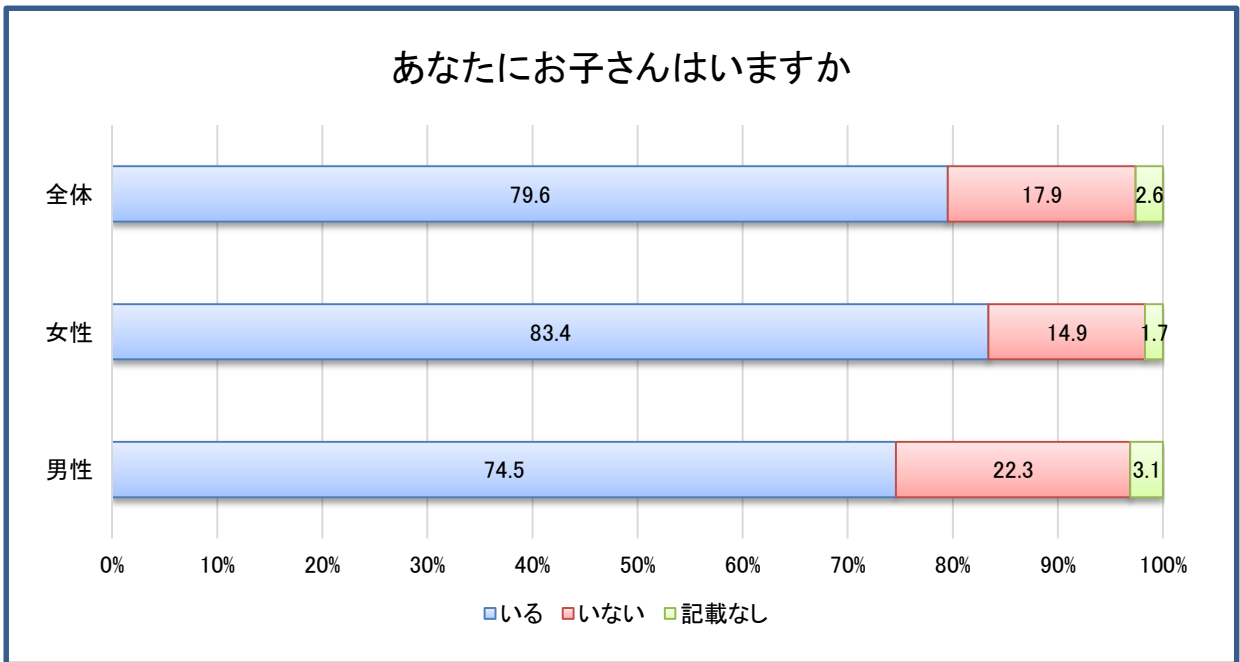
■結婚しているか



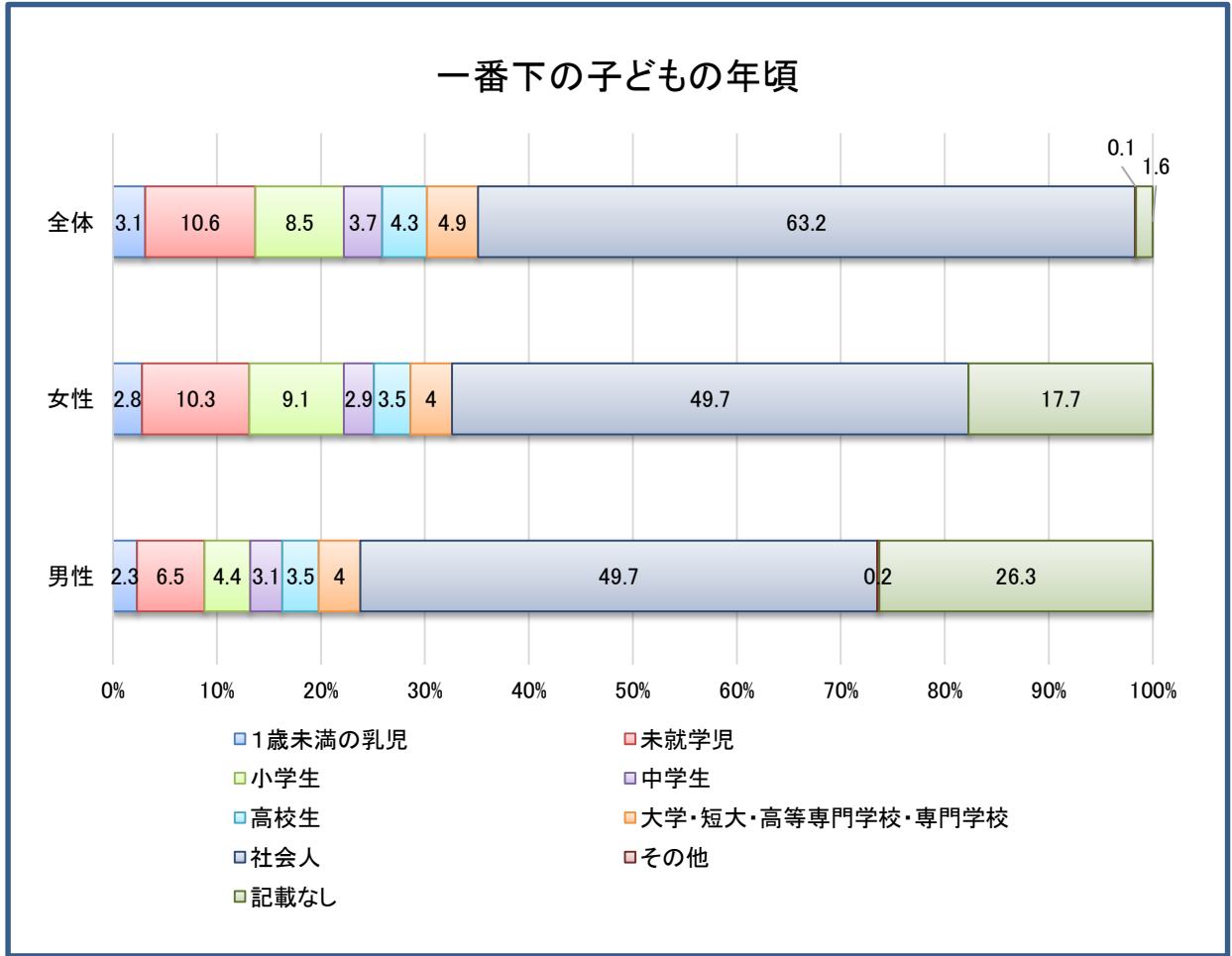
■配偶者の職業



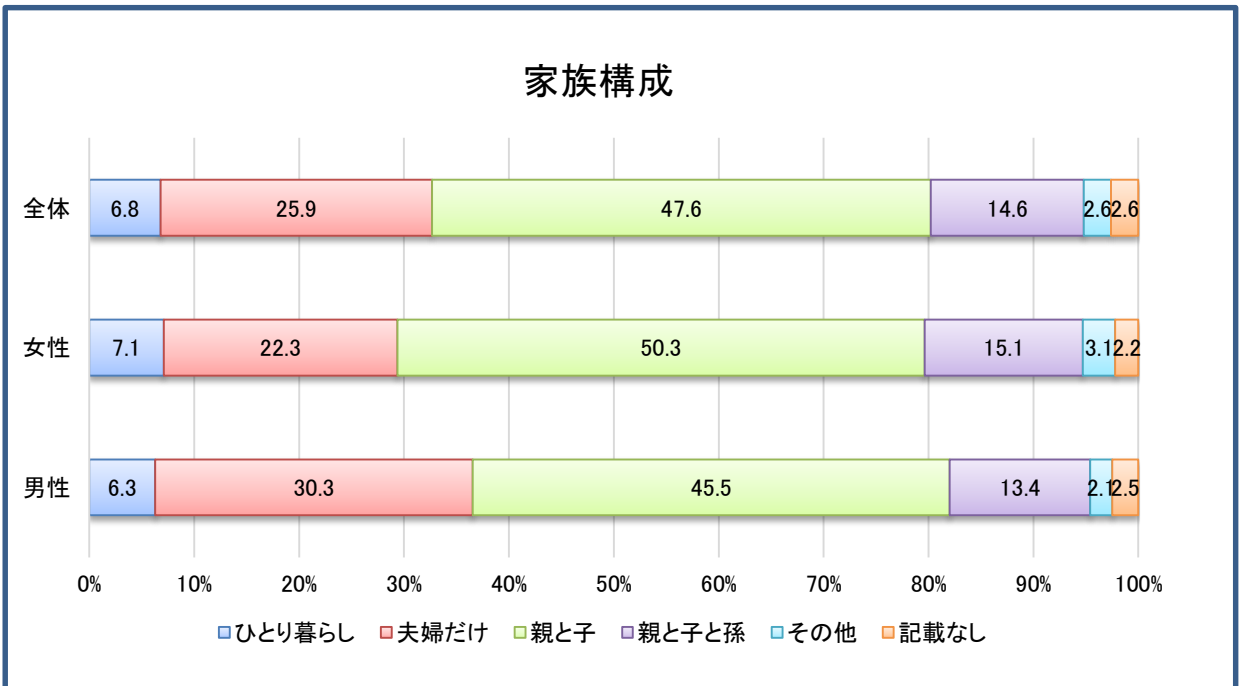
■子どもはいるか



■一番下の子の年頃

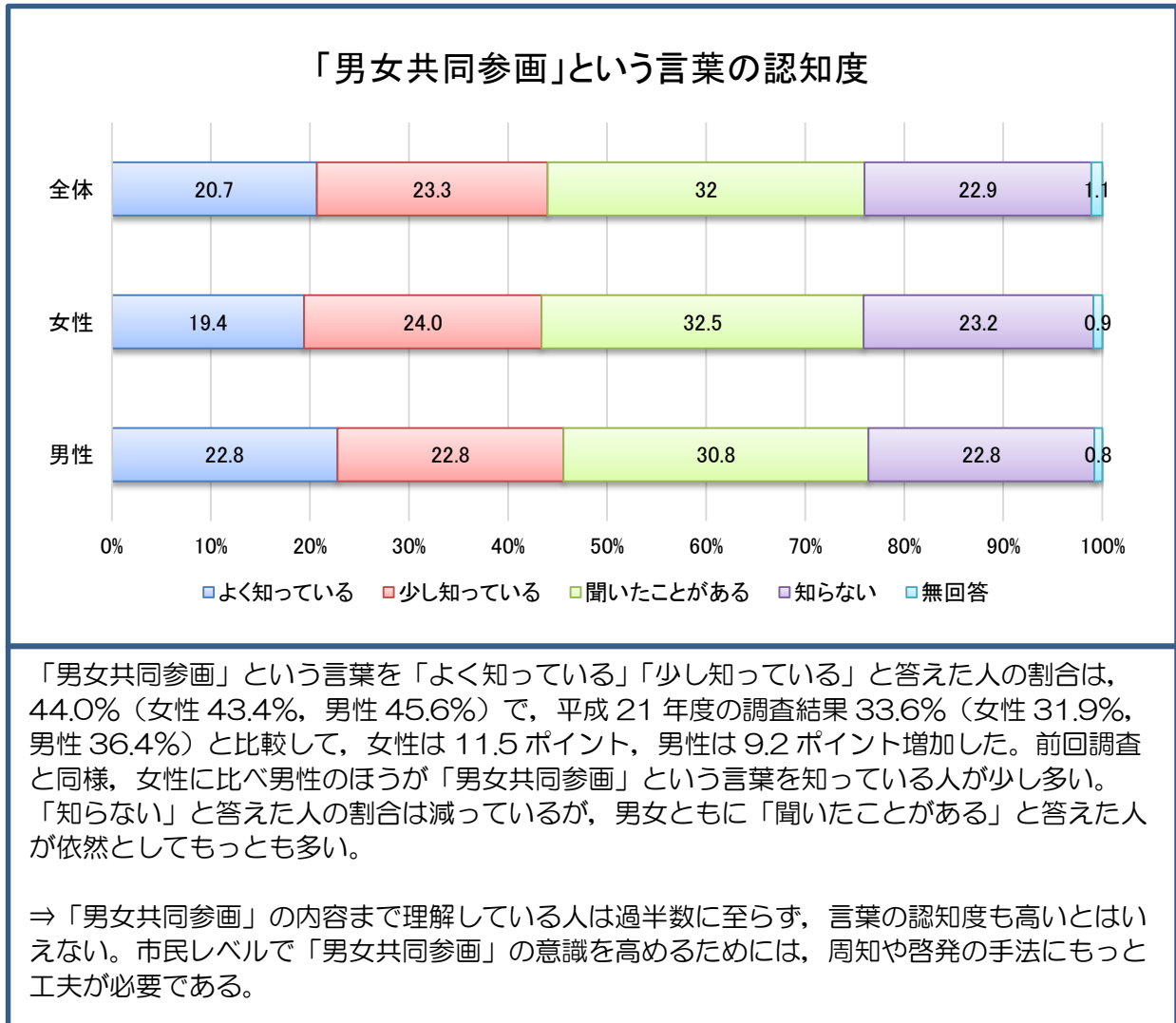


■家族構成

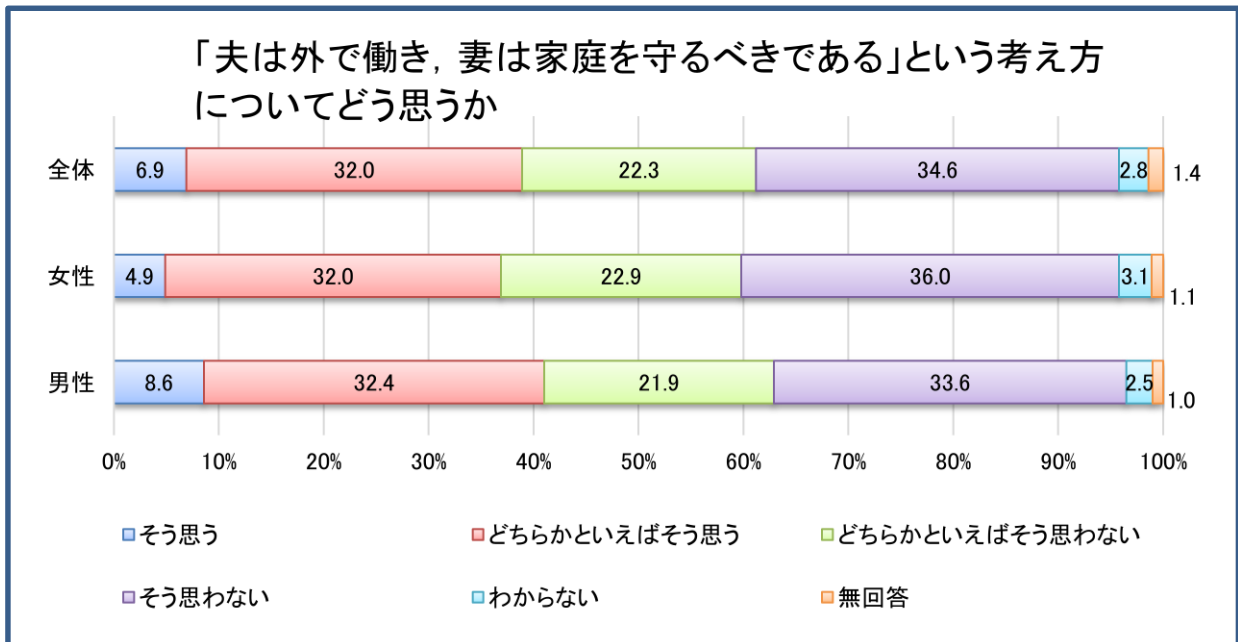


## 1 男女平等意識について

問1 あなたは「男女共同参画」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。



問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。



性別役割分担意識に否定的な「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合は56.9%（女性58.9%、男性55.5%）で、前回の調査結果の50.0%（女性52.8%、男性47.3%）と比較して女性は6.1ポイント、男性は8.2ポイント、全体では6.9ポイント増加した。一方、肯定的な「そう思う」「どちらかといえばそう思う」は38.9%（女性36.9%、男性41.0%）で、前回調査の44.3%（女性41.4%、男性47.4%）と比較して女性は4.5ポイント、男性は6.4ポイント、全体では5.4ポイント減少した。

⇒高齢者世代において男女ともにまだまだ性別役割分担意識が強いため、身近な課題からアプローチする意識啓発を工夫する必要がある。また、20代の女性に肯定的な傾向が見られるため、その背景について検証する必要がある。

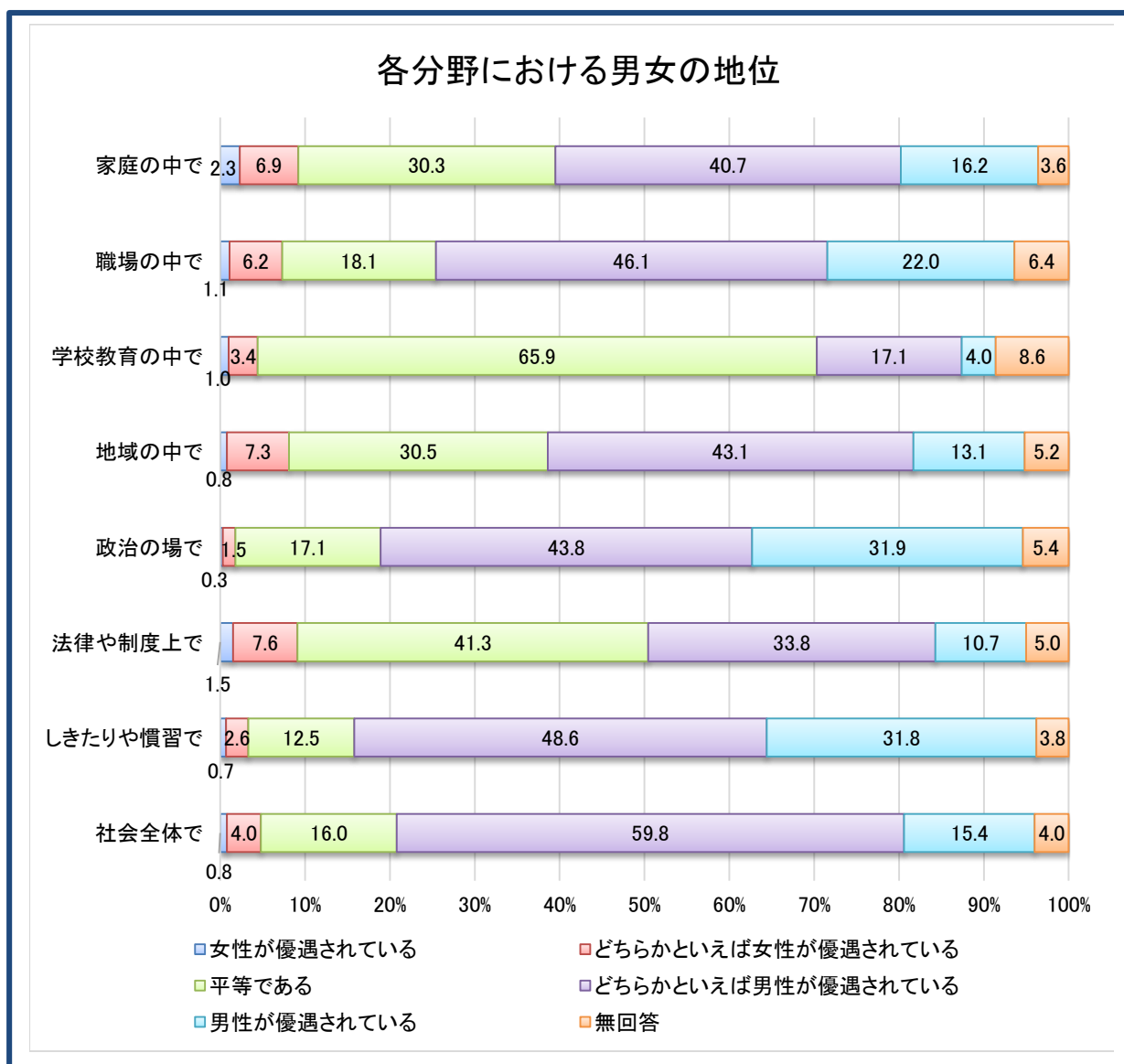
【性別・年代別表】「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方

		全体	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答	
全体		1164	80	373	259	403	33	16	(人数)
		100.0	6.9	32.0	22.3	34.6	2.8	1.4	(%)
女性	全体	650	32	208	149	234	20	7	
		100.0	4.9	32.0	22.9	36.0	3.1	1.1	
	20～29 歳	58	1	22	18	16	1	0	
		100.0	1.7	37.9	31.0	27.6	1.7	0.0	
	30～39 歳	98	3	31	19	38	7	0	
		100.0	3.1	31.6	19.4	38.8	7.1	0.0	
	40～49 歳	116	3	32	30	48	2	1	
		100.0	2.6	27.6	25.9	41.4	1.7	0.9	
	50～59 歳	104	5	28	25	41	5	0	
	100.0	4.8	26.9	24.0	39.4	4.8	0.0		
60～69 歳	148	9	47	36	53	2	1		
	100.0	6.1	31.8	24.3	35.8	1.4	0.7		
70～79 歳	85	5	36	13	29	0	2		
	100.0	5.9	42.4	15.3	34.1	0.0	2.4		
80 歳以上	41	6	12	8	9	3	3		
	100.0	14.6	29.3	19.5	22.0	7.3	7.3		
男性	全体	479	41	155	105	161	12	5	
		100.0	8.6	32.4	21.9	33.6	2.5	1.0	
	20～29 歳	37	3	12	7	15	0	0	
		100.0	8.1	32.4	18.9	40.5	0.0	0.0	
	30～39 歳	57	3	16	12	21	5	0	
		100.0	5.3	28.1	21.1	36.8	8.8	0.0	
	40～49 歳	61	6	22	12	20	1	0	
		100.0	9.8	36.1	19.7	32.8	1.6	0.0	
	50～59 歳	85	6	25	19	31	4	0	
	100.0	7.1	29.4	22.4	36.5	4.7	0.0		
60～69 歳	110	7	32	23	43	2	3		
	100.0	6.4	29.1	20.9	39.1	1.8	2.7		
70～79 歳	93	8	37	27	20	0	1		
	100.0	8.6	39.8	29.0	21.5	0.0	1.1		
80 歳以上	34	8	10	4	11	0	1		
	100.0	23.5	29.4	11.8	32.4	0.0	2.9		

●20代 30代は学習指導要領改訂（1989年＝昭和64年）後の男女平等教育を受けた世代であり、男女共同参画に関する意識は子どものころからある程度定着していると思われる。



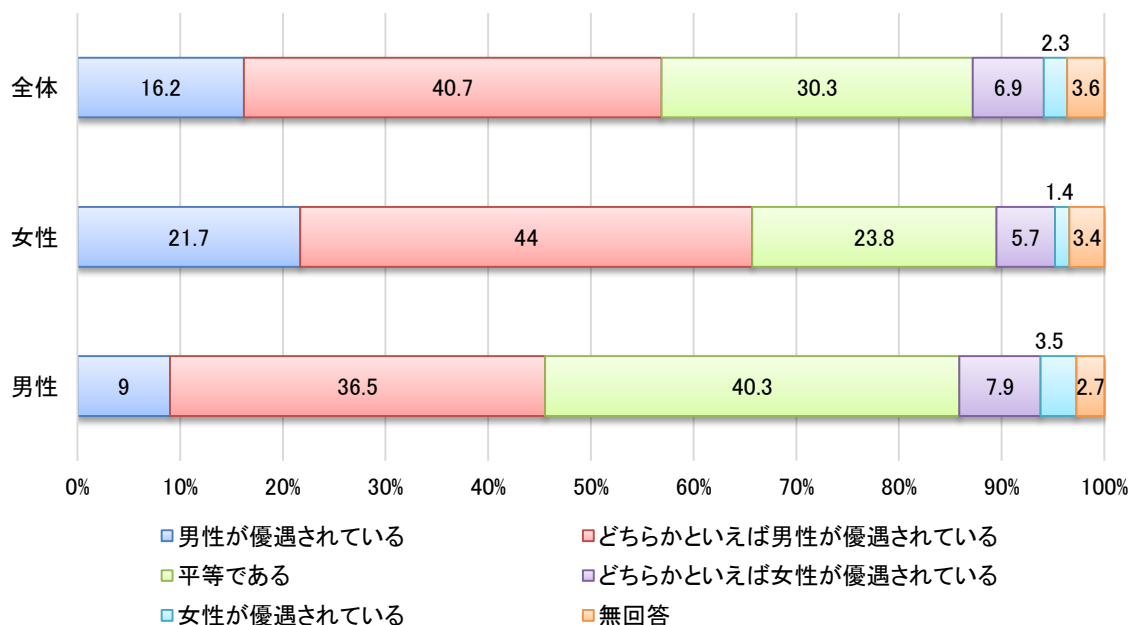
問3 あなたは、次にあげる①～⑧の分野において男女の地位が平等になっていると思いますか。各分野ごとにそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。



それぞれの分野での平等感について、「学校教育」では男女ともに「平等である」とする人が前回調査をさらに上回り 65.9% (+5.4 ポイント) となっている。「法律や制度上」では、全体で「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と「平等である」がほぼ同割合であるものの、性別に見ると女性では 55.6% が「男性が優遇されている」と答えているのに対し、男性では 31.5% であり、男女間の意識の差が顕著である。その他の分野では、「男性が優遇されている」と思う人の割合が高く、特に「しきたりや慣習」では前回調査より 7.9 ポイントも増加している。

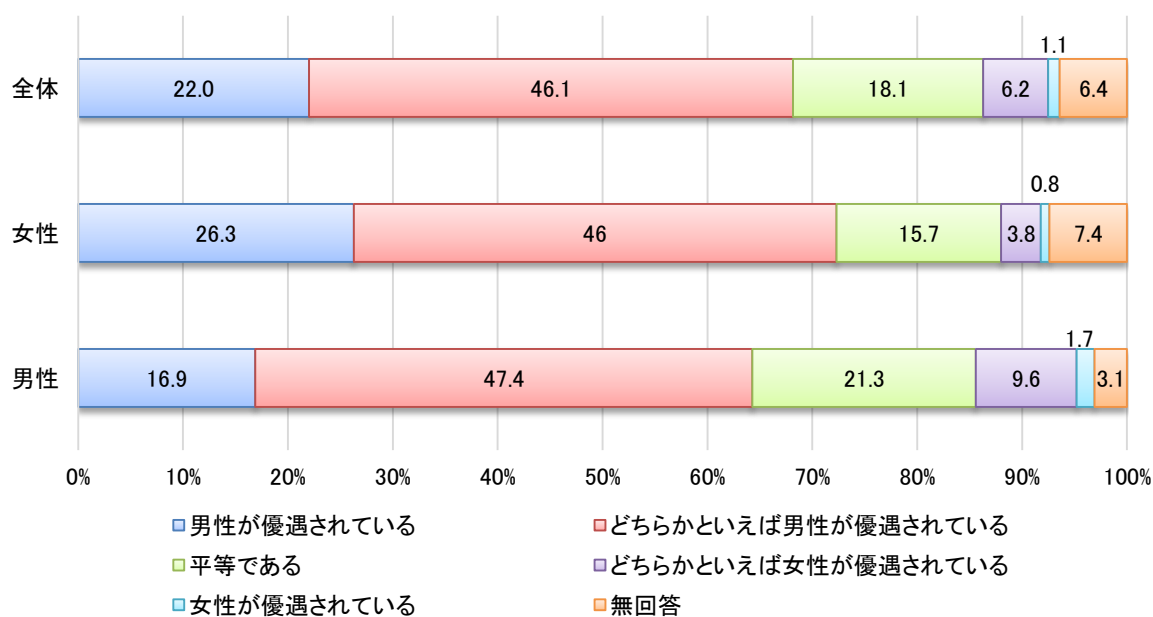
⇒法律や制度が整備され、公の場における男女平等は確立されてきているが、日々の生活では、以前より「男性が優遇されている」と感じる場面が増えてきているようである。社会状況の変化によるさまざまな影響がどのような実態につながっているのか、事業を通じて課題を見出し、改善に向けて対応策を講じる必要がある。

### ①家庭の中で



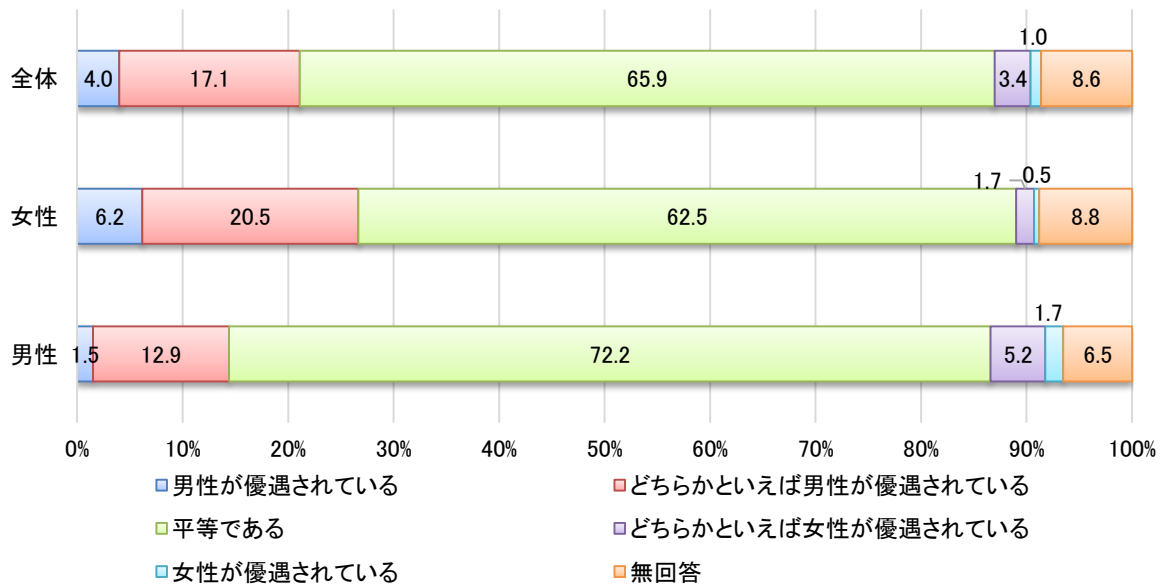
家庭における男女の地位について、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた人の割合は56.9%で、前回調査の50.2%より6.7ポイント増加した。また、「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」と答えた人の割合は9.2%で前回の13.3%より4.1ポイント減少した。「平等である」と答えた人の割合は30.3%で、前回の31.8%より1.5ポイント減少した。

### ②職場の中で



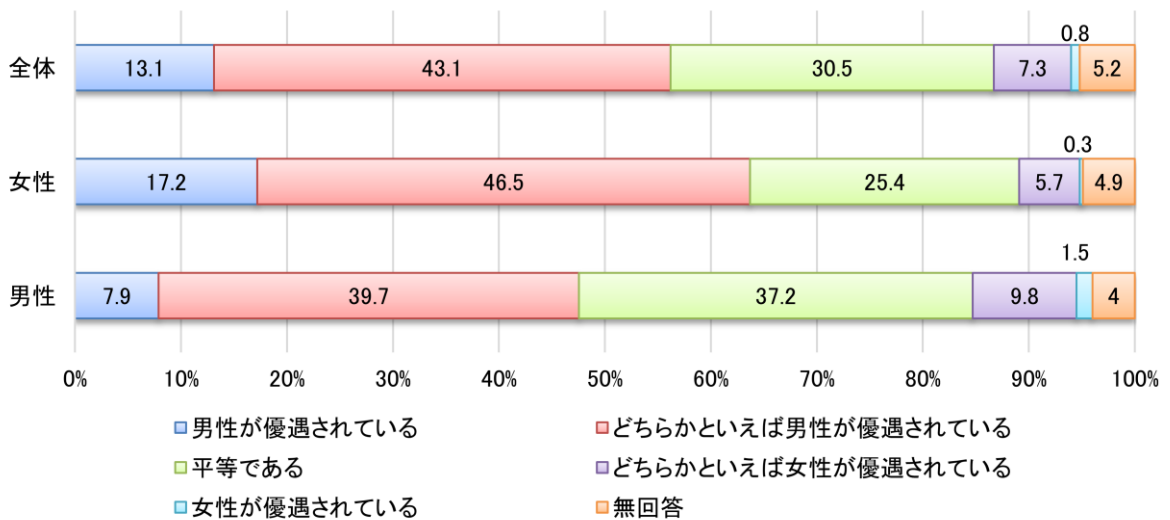
職場における男女の地位について、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた人の割合は68.1%で、前回調査の55.5%より12.6ポイント増加した。また、「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」と答えた人の割合は7.3%で前回の8.9%より1.6ポイント減少した。「平等である」と答えた人の割合は15.7%で、前回の22.2%より6.5ポイント減少した。

### ③学校教育の中で



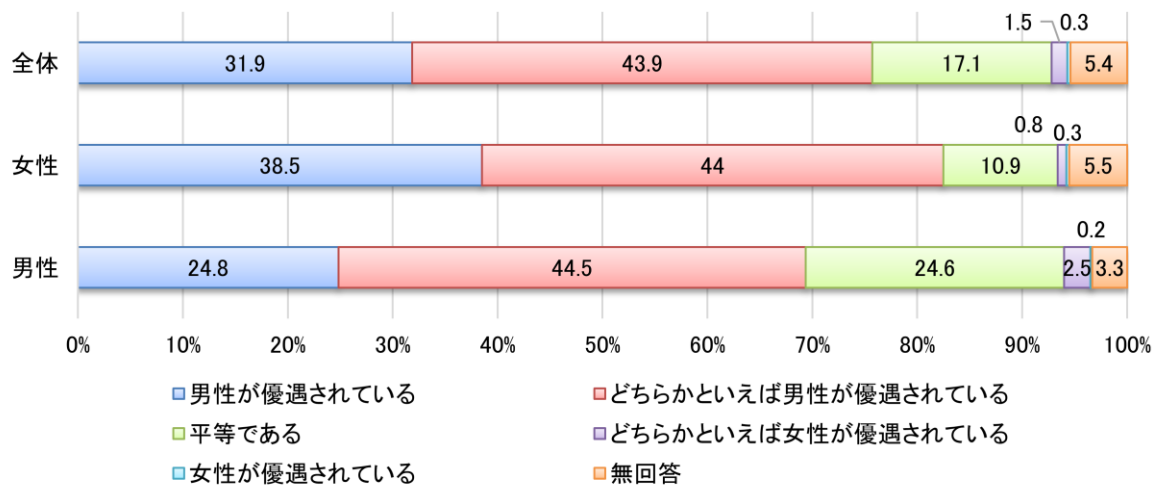
学校教育における男女の地位について、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた人の割合は21.1%で、前回調査の11.3%より9.8ポイント減少した。また、「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」と答えた人の割合は4.4%で前回の5.4%より1.0ポイント減少した。「平等である」と答えた人の割合は65.9%で前回の60.5%より5.4ポイント増加した。

### ④地域の中で



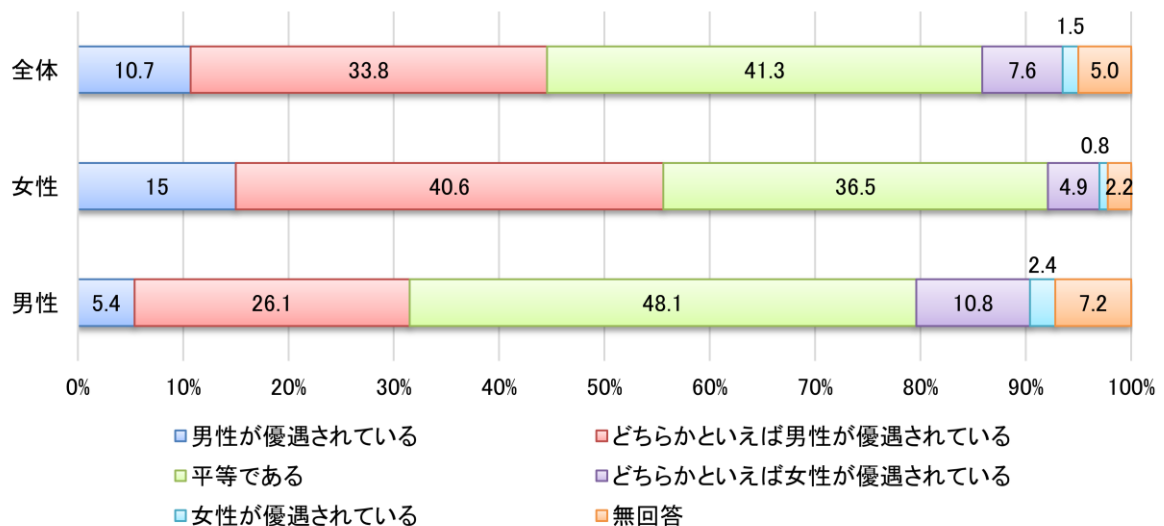
地域における男女の地位について、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた人の割合は56.2%で、前回調査の45.7%より10.5ポイント増加した。また、「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」と答えた人の割合は8.1%で前回の7.1%より1.0ポイント減少した。「平等である」と答えた人の割合は30.5%で前回の36.2%より5.7ポイント減少した。

### ⑤政治の場で



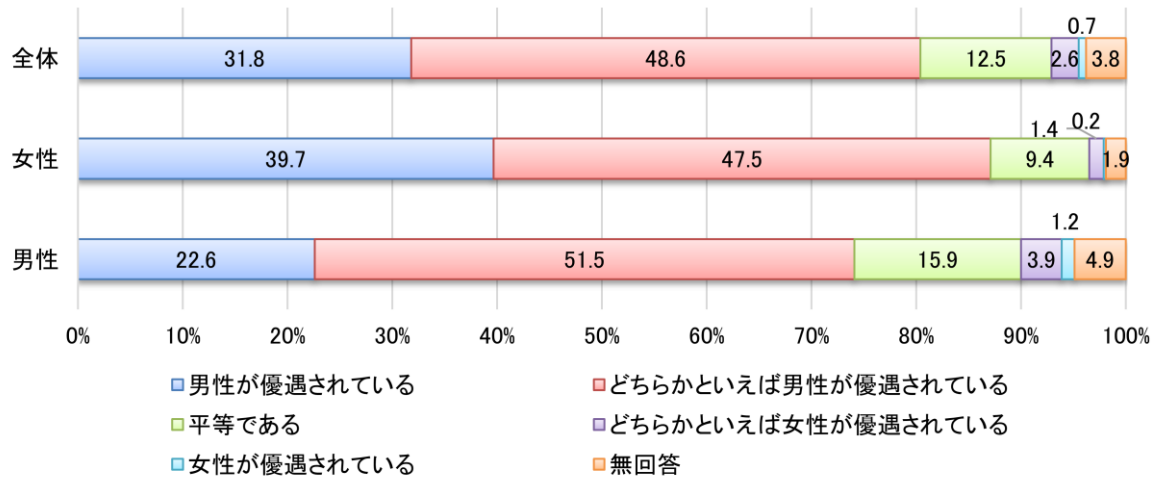
政治における男女の地位について、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた人の割合は75.8%（女性82.5%、男性69.3%）、「平等である」と答えた人の割合は17.1%（女性10.9%、男性24.6%）で、圧倒的に女性の方が不平等感が高い。

### ⑥法律や制度上で



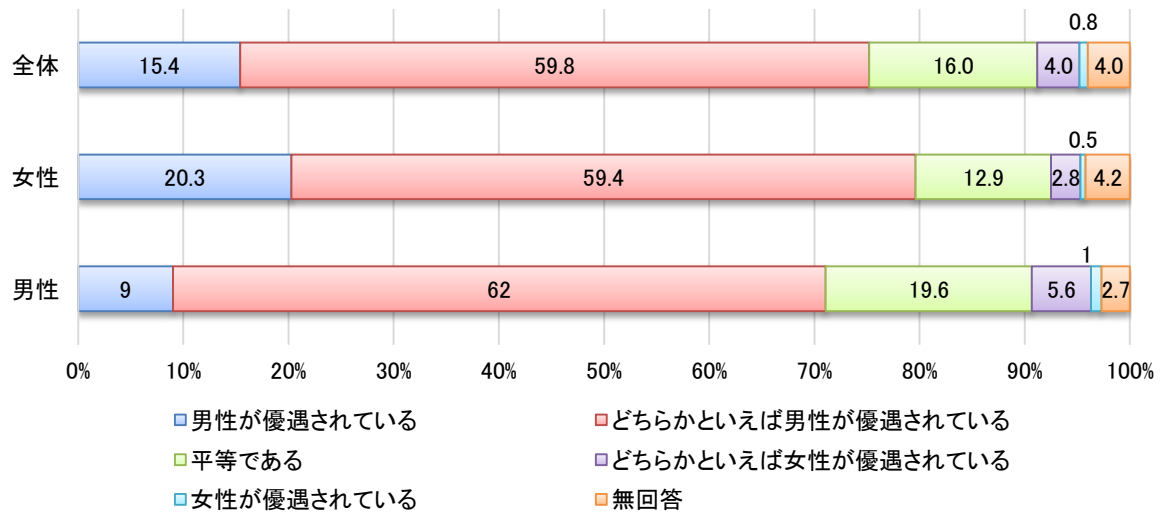
法律や制度上における男女の地位について、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた人の割合は44.5%で、前回調査の39.1%より5.4ポイント増加した。また、「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」と答えた人の割合は9.1%で前回の10.6%より1.5ポイント減少した。「平等である」と答えた人の割合は41.3%で、前回の38.9%より2.4ポイント増加した。

### ⑦しきたりや慣習で



しきたりや慣習における男女の地位について、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた人の割合は80.4%で、前回調査の72.5%より7.9ポイント増加した。また、「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」と答えた人の割合は3.3%で前回の3.6%より0.3ポイント減少した。「平等である」と答えた人の割合は12.5%で、前回の14.9%より2.4ポイント減少した。

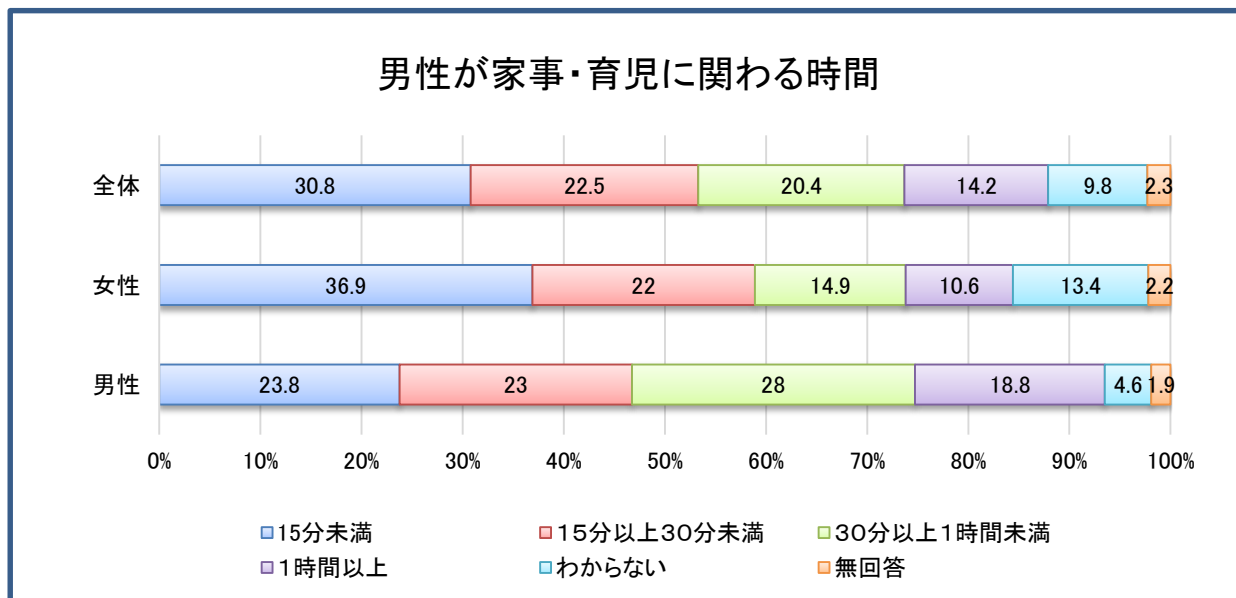
### ⑧社会全体で



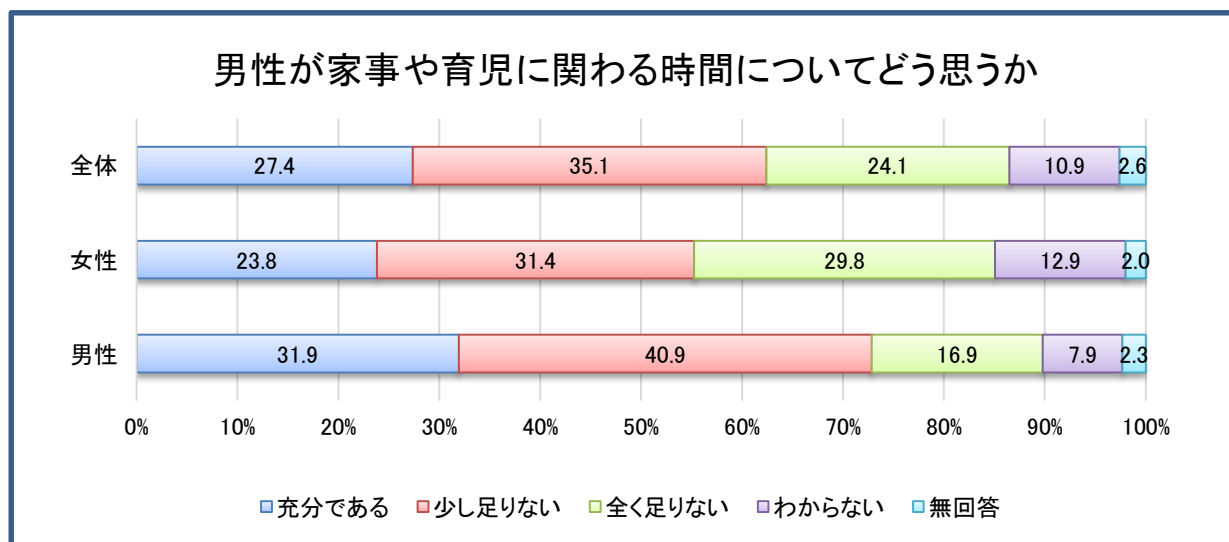
社会全体における男女の地位について、「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えた人の割合は75.2%で、前回調査の68.2%より7.0ポイント増加した。また、「女性が優遇されている」「どちらかといえば女性が優遇されている」と答えた人の割合は4.8%で前回の7.5%より2.7ポイント減少した。「平等である」と答えた人の割合は16.0%で、前回の16.3%より0.3ポイント減少した。

## 2 家庭生活について

問4 あなたの家庭で、男性が1日に行っている家事や育児の時間は平均でどれくらいですか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

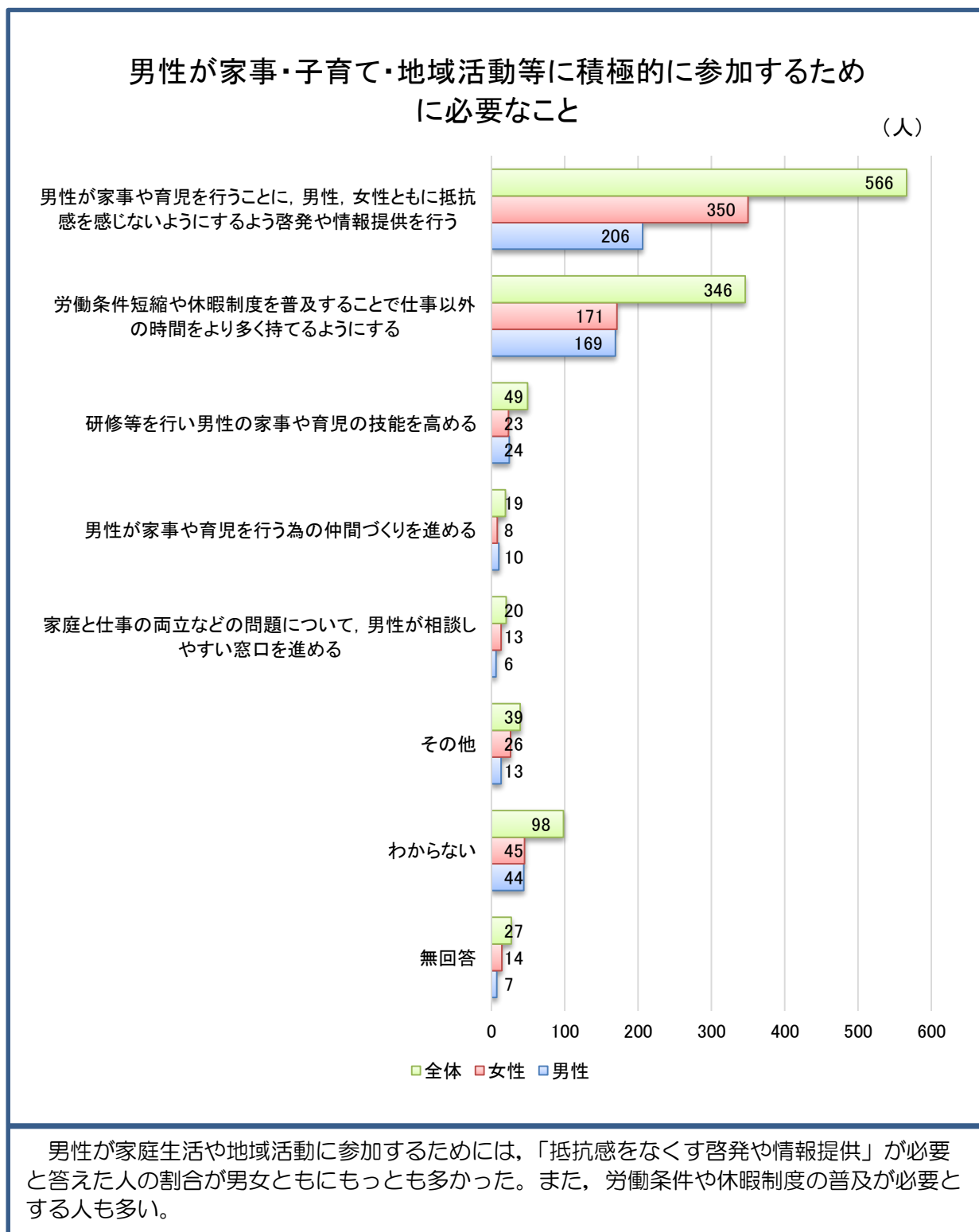


問5 あなたの家庭で、男性が家事や育児に関わる時間は充分だと思いますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

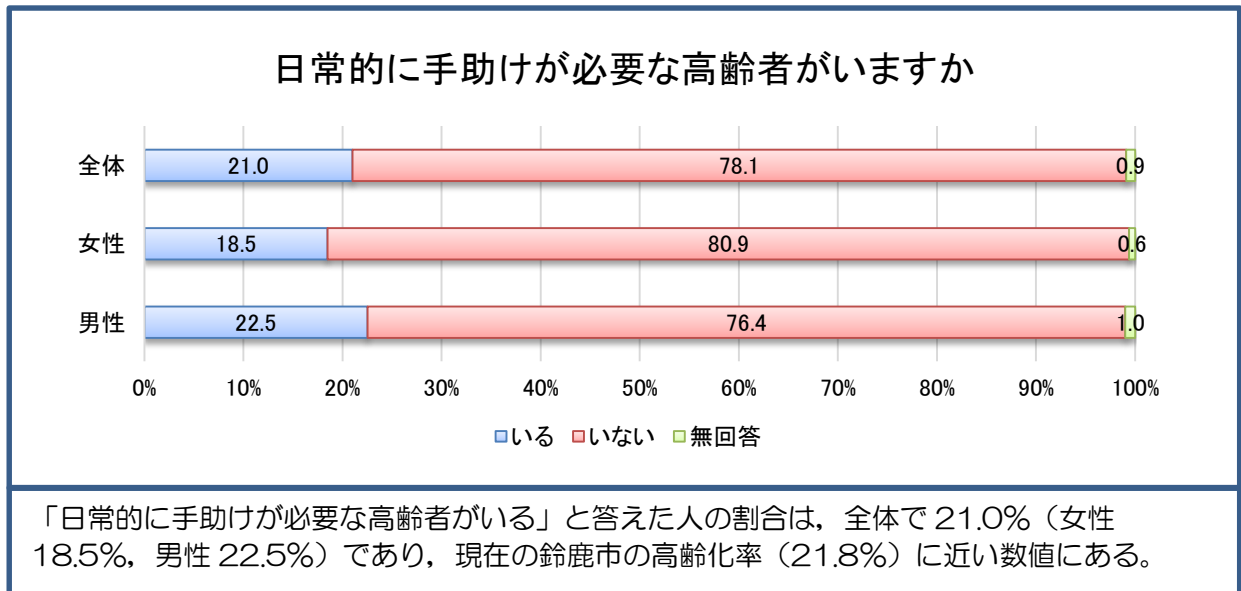


男性が家事や育児に関わる時間が「30分未満」と答えた人の割合は、53.3%（女性58.9%、男性46.8%）、「30分以上」と答えた人の割合は、34.6%（女性25.5%、男性46.8%）だった。その時間についてどう思うかという質問では、「まったく足りない」「少し足りない」と答えた人の割合は59.2%（女性61.2%、男性57.8%）で、「充分である」の27.4%（女性23.8%、男性31.9%）と比較して2倍以上の開きがあった。

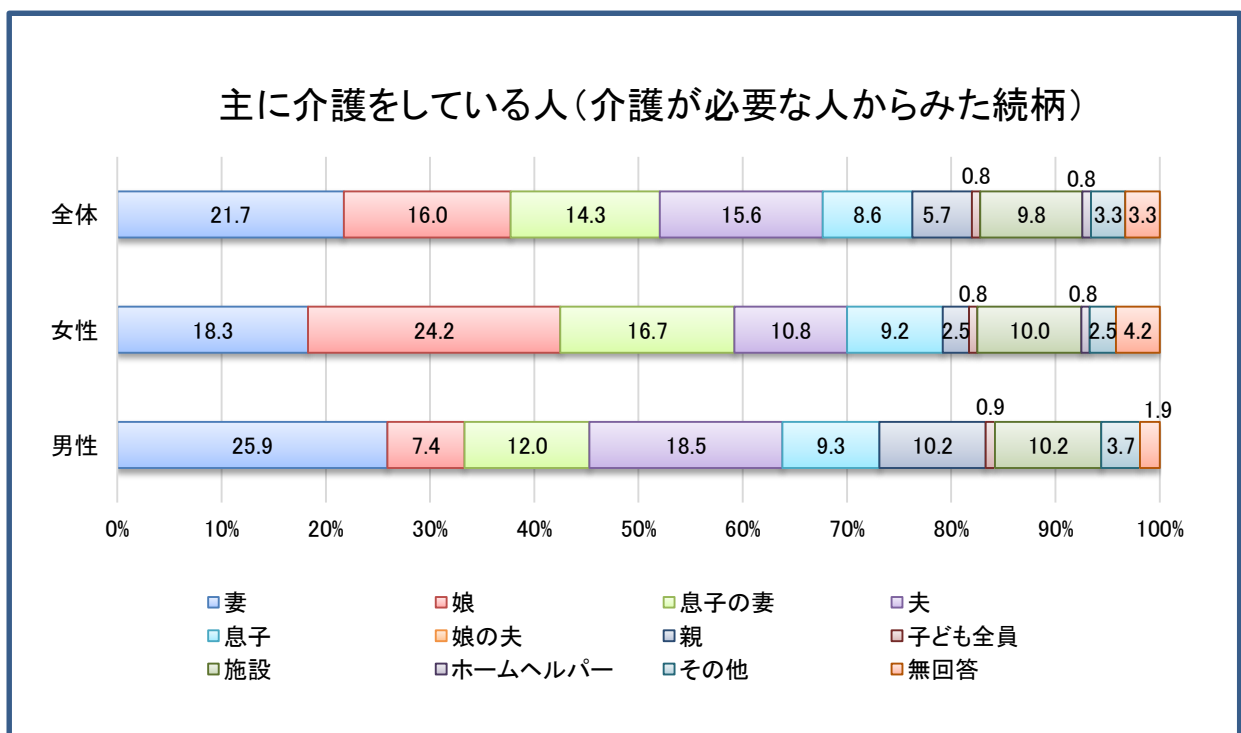
問6 男性が家事や育児に充分関われるようにするためにはどうすればよいと思いますか。次の中から2つまで選んで○印をつけてください。



問7 あなたの家庭では、日常的に手助けが必要な高齢者の方はいますか。次のどちらかに○印をつけてください。

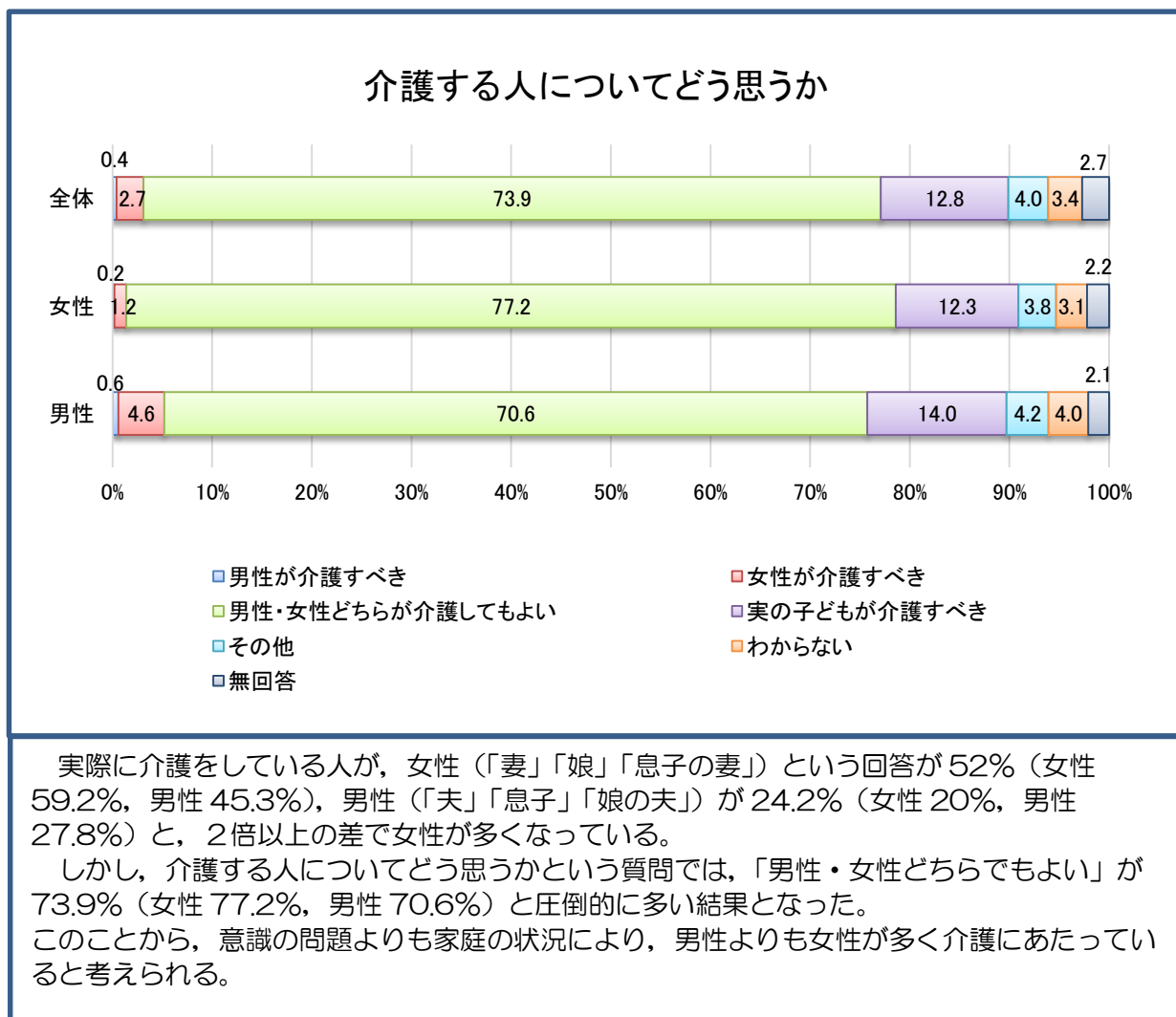


問8（問7で「1. いる」と答えた方にお聞きします。）  
その人の世話は主にどなたがされていますか。次に中から1つ選んで○印をつけてください。（\*高齢者の方からみた続柄でお答えください。）

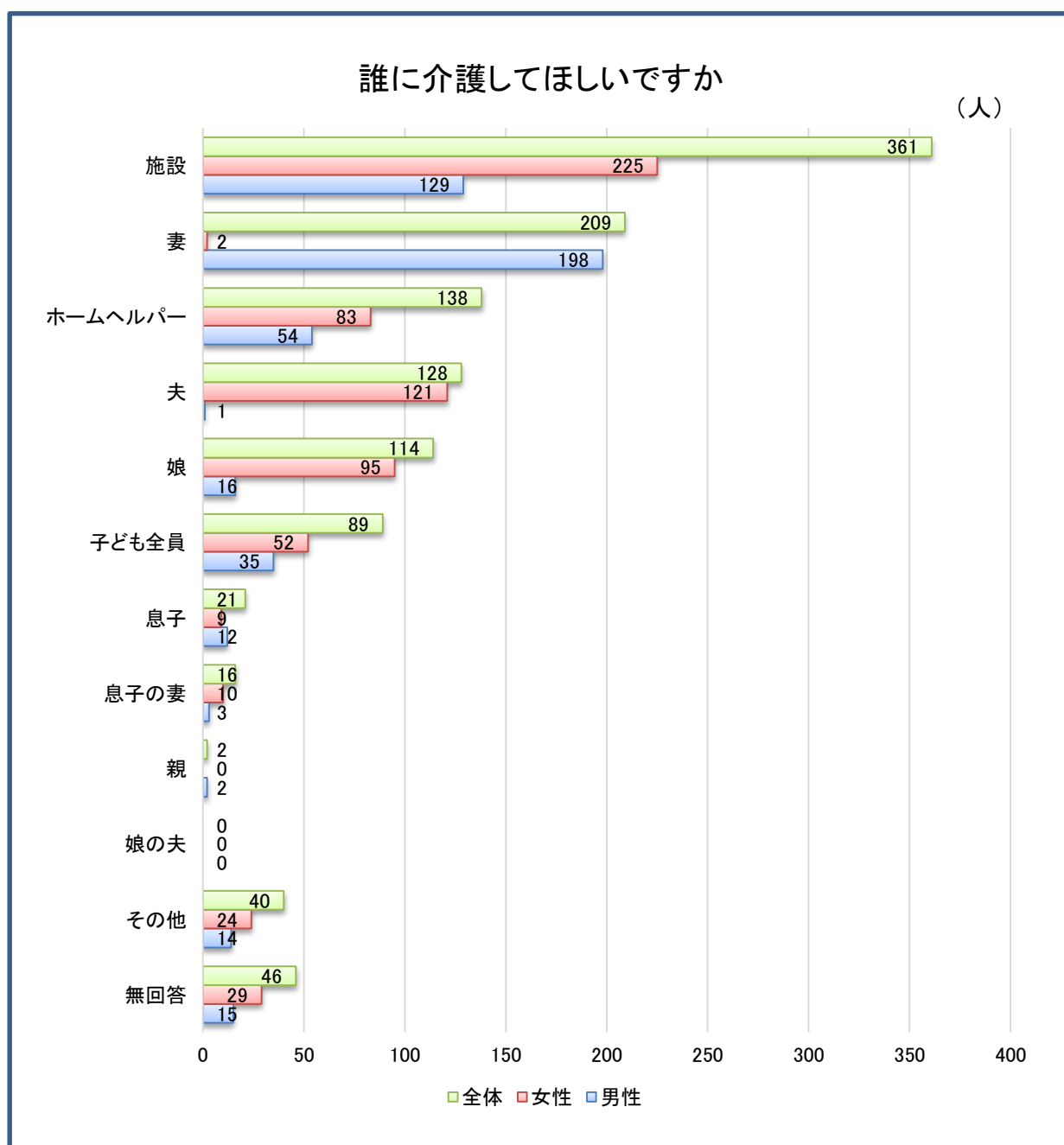




問9 介護する人についてあなたはどのように思いますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。



問10 あなたは将来、主にだれに介護をしてほしいと思いますか。  
次の中から1つ選んで○印をつけてください。

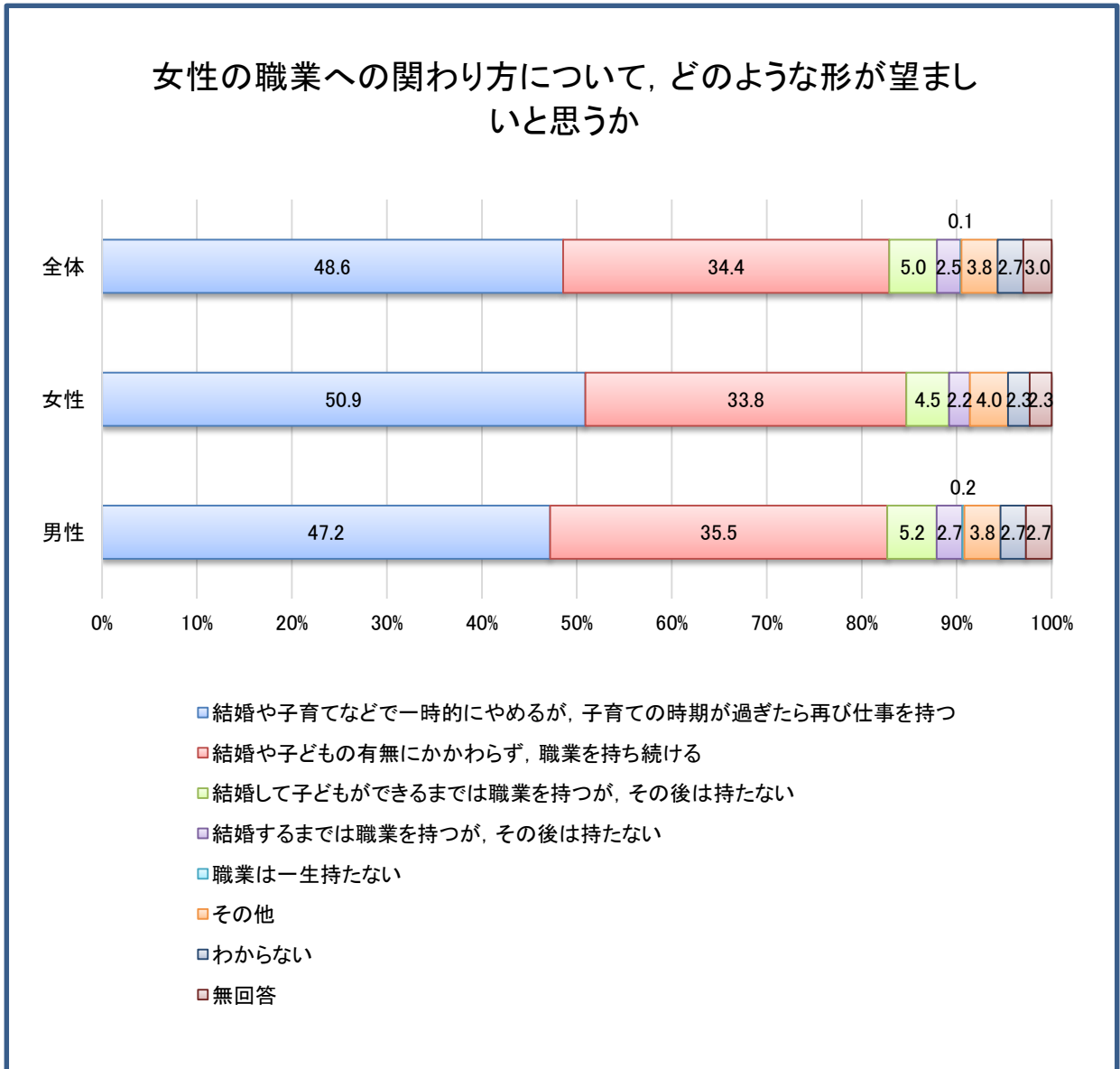


「誰に介護してほしいですか」という問いに対して、「施設」と答えた人の割合は31.0%（女性34.6%、男性25.1%）であった。また、「配偶者」と答えた人の割合は、女性が18.6%、男性は38.5%であり、介護に対する意識に大きな隔たりが見られた。

⇒「施設」や「ホームヘルパー」による介護を希望する人の割合が高い。今後、高齢社会の進展に伴い、こういった社会資源の充実がますます求められてくると思われる。

### 3 就労・職業について

問11 女性の職業への関わり方について、あなたはどのような形が最も望ましいと思いますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

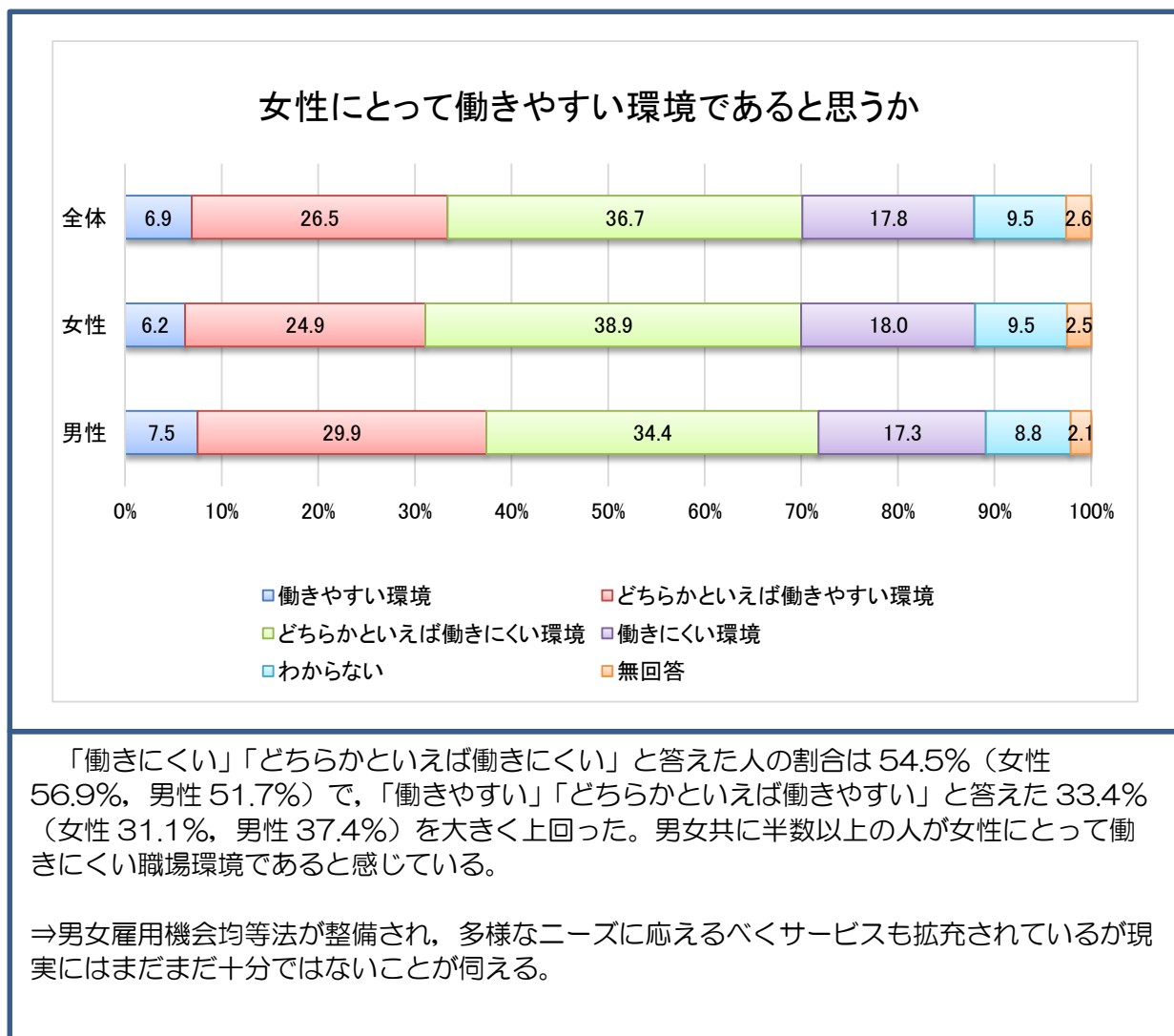


「結婚や子どもの有無にかかわらず、職業を持ち続ける」の回答が34.4%（女性33.8%、男性35.5%）と、平成21年度の調査結果の19.9%（女性22.2%、男性17.1%）と比較して女性は11.6ポイント、男性は18.4ポイント、全体では14.5ポイント増加している。

一方、「一時的にやめるが、再び仕事を持つ」が48.6%（女性50.9%、男性47.2%）で、平成21年度の調査結果の58.8%（女性59.6%、男性58.9%）から女性は8.7ポイント、男性は11.7ポイント、全体では10.2ポイント減少している。特に男性の意識変化が大きい。

⇒「一時中断型」は三重県の女性の働き方の特徴であるといわれている。「継続型」に転じさせるためには、子育てや介護をサポートする社会的仕組みの構築とともに、企業の就労規則の改善など雇用側の理解も重要である。

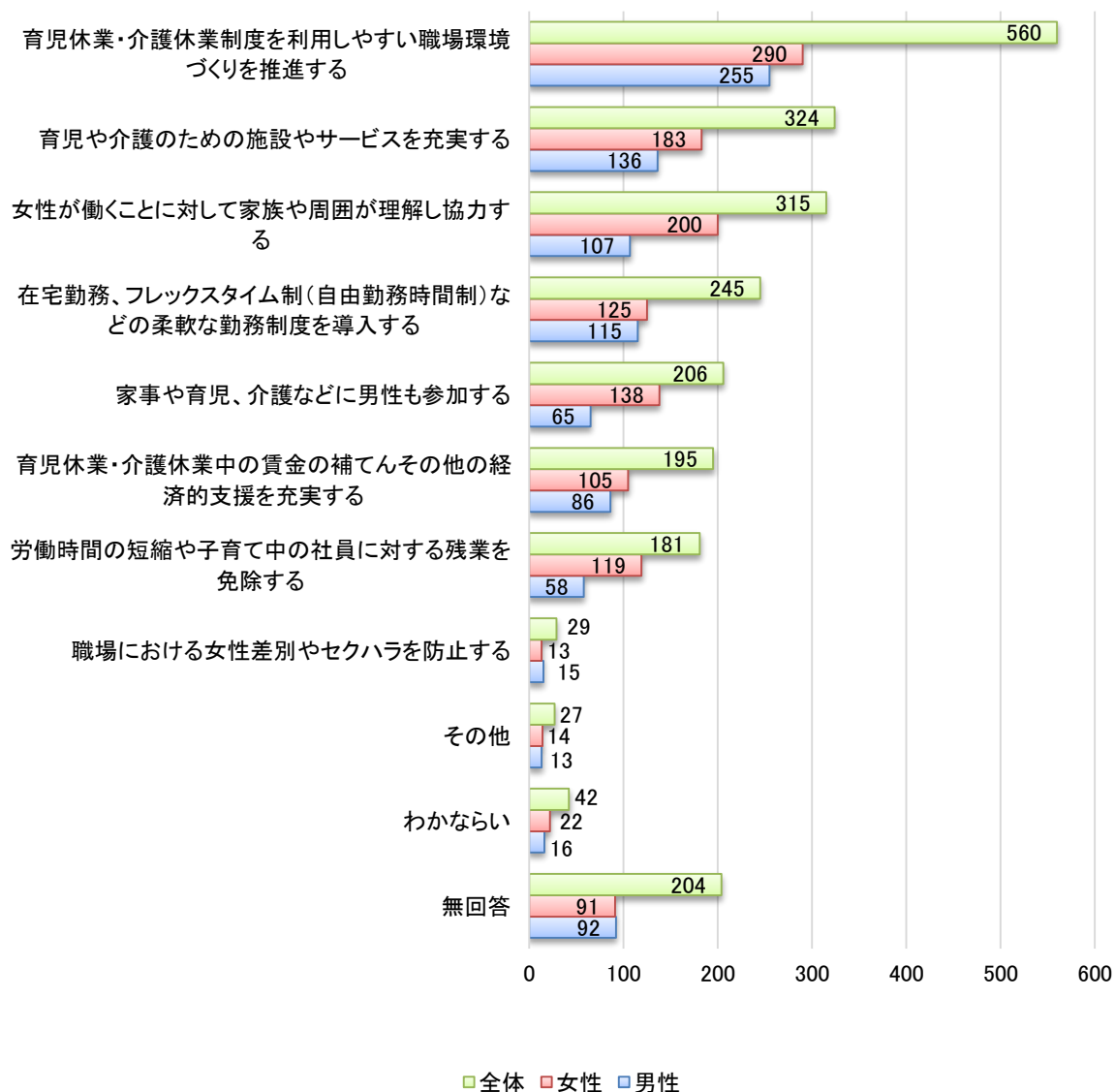
問12 あなたは、現在、働きたいと思う女性にとって働きやすい環境であると思いますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。



問13 女性が、出産、子育て、介護などの理由で仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から2つまで選んで○印をつけてください。

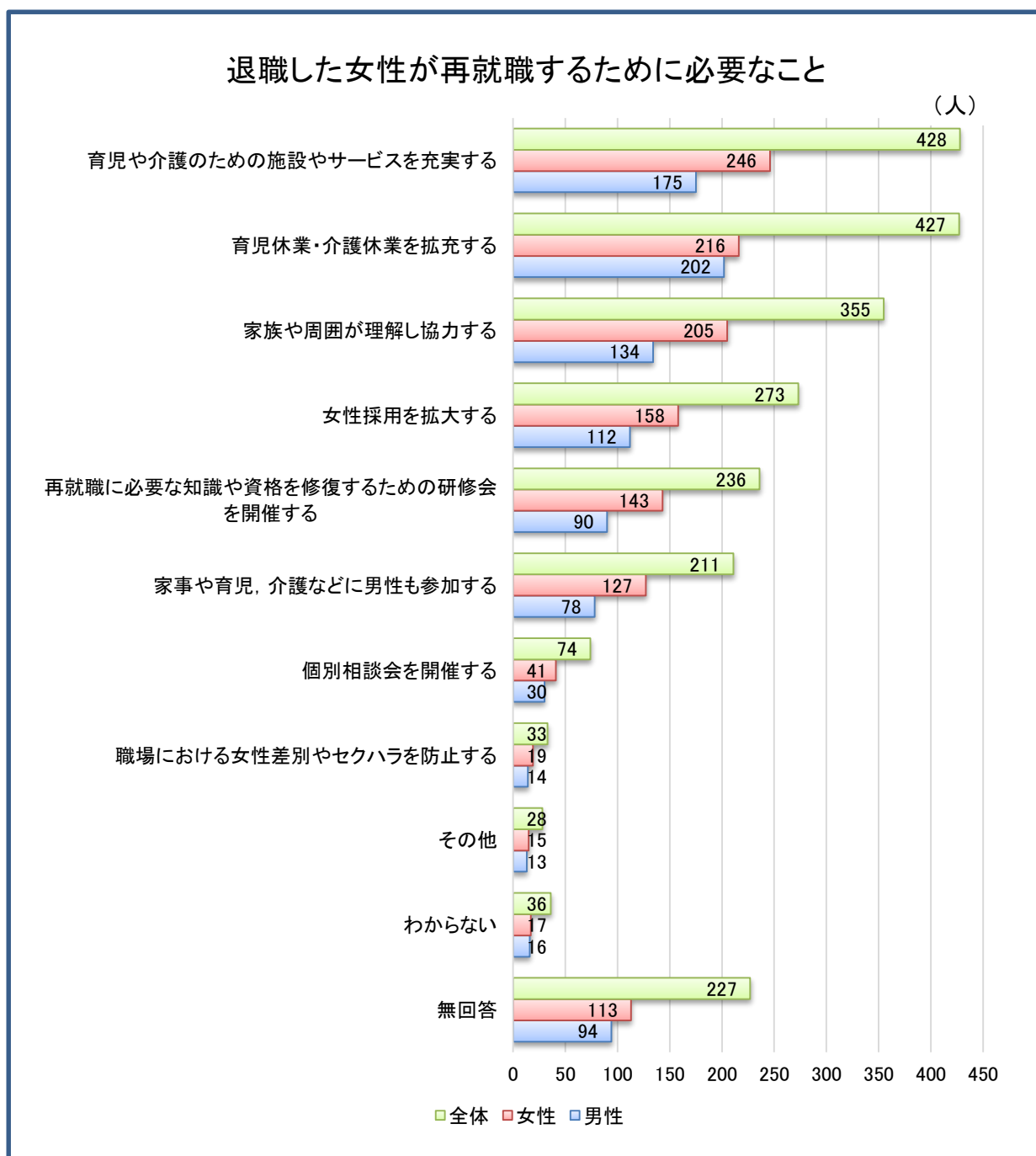
女性が出産、子育て、介護などの理由で仕事を辞めずに働き続けるためには、どのようなことが必要だと思うか(複数回答)

(人)



全体では「育児や介護の休業制度を利用しやすい職場環境づくりの推進」が突出して多かった。次いで「育児や介護の施設やサービスの充実」や「家族や周囲の理解と協力」となっている。女性の回答では「女性が働くことに対して家族や周囲が理解し協力する」も多かった。

問14 出産、子育て、介護などの理由で退職した女性が再就職するためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から2つまで選んで○印をつけてください。

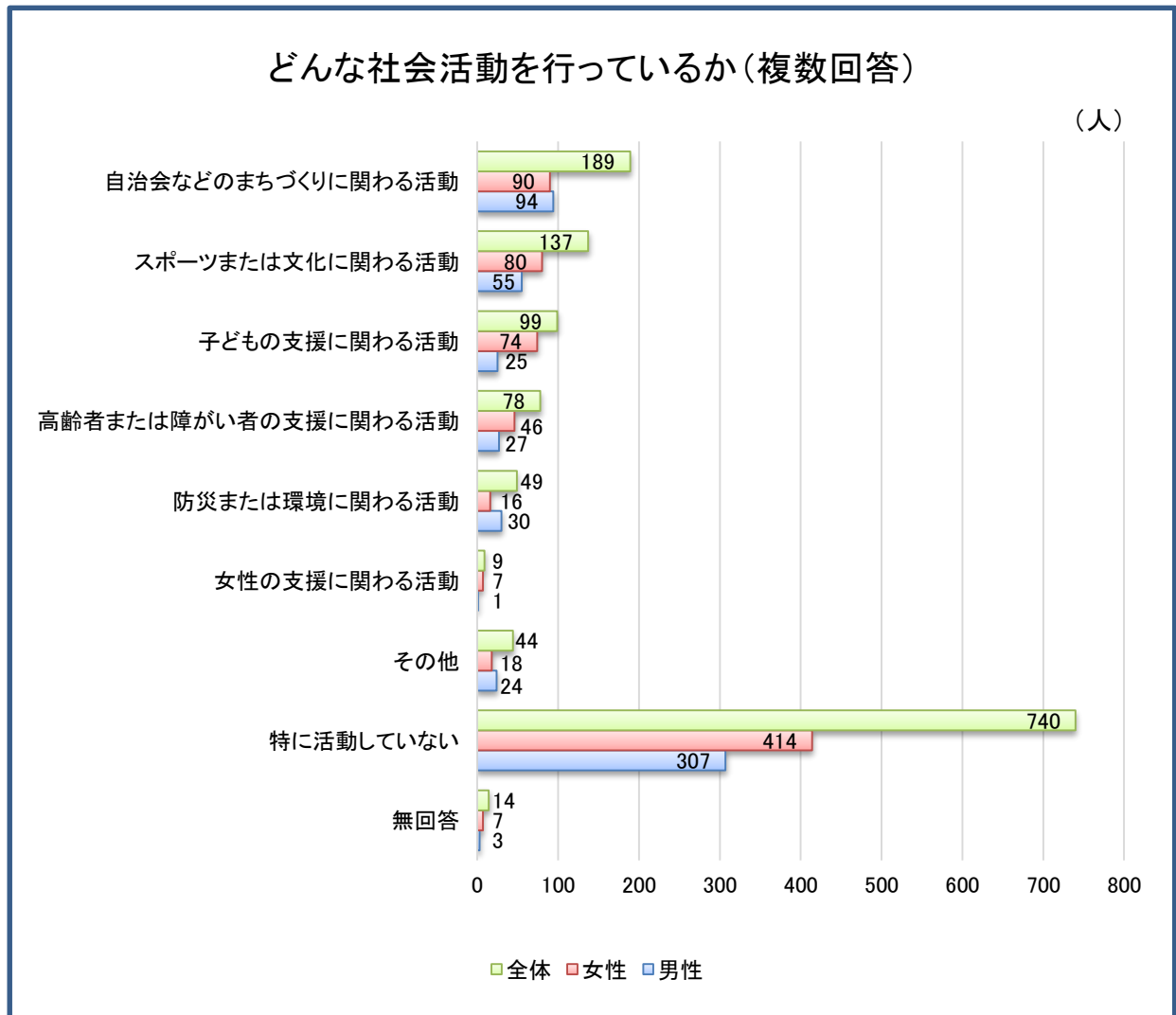


女性の再就職を阻んでいる大きな原因に育児や介護があることが伺える。

⇒育児や介護をする側とされる側、両方へのサービスの充実や制度の拡充が求められている。

## 4 社会活動について

問15 あなたは現在、次のような活動を行っていますか。あてはまるものすべて選んで○印をつけてください。

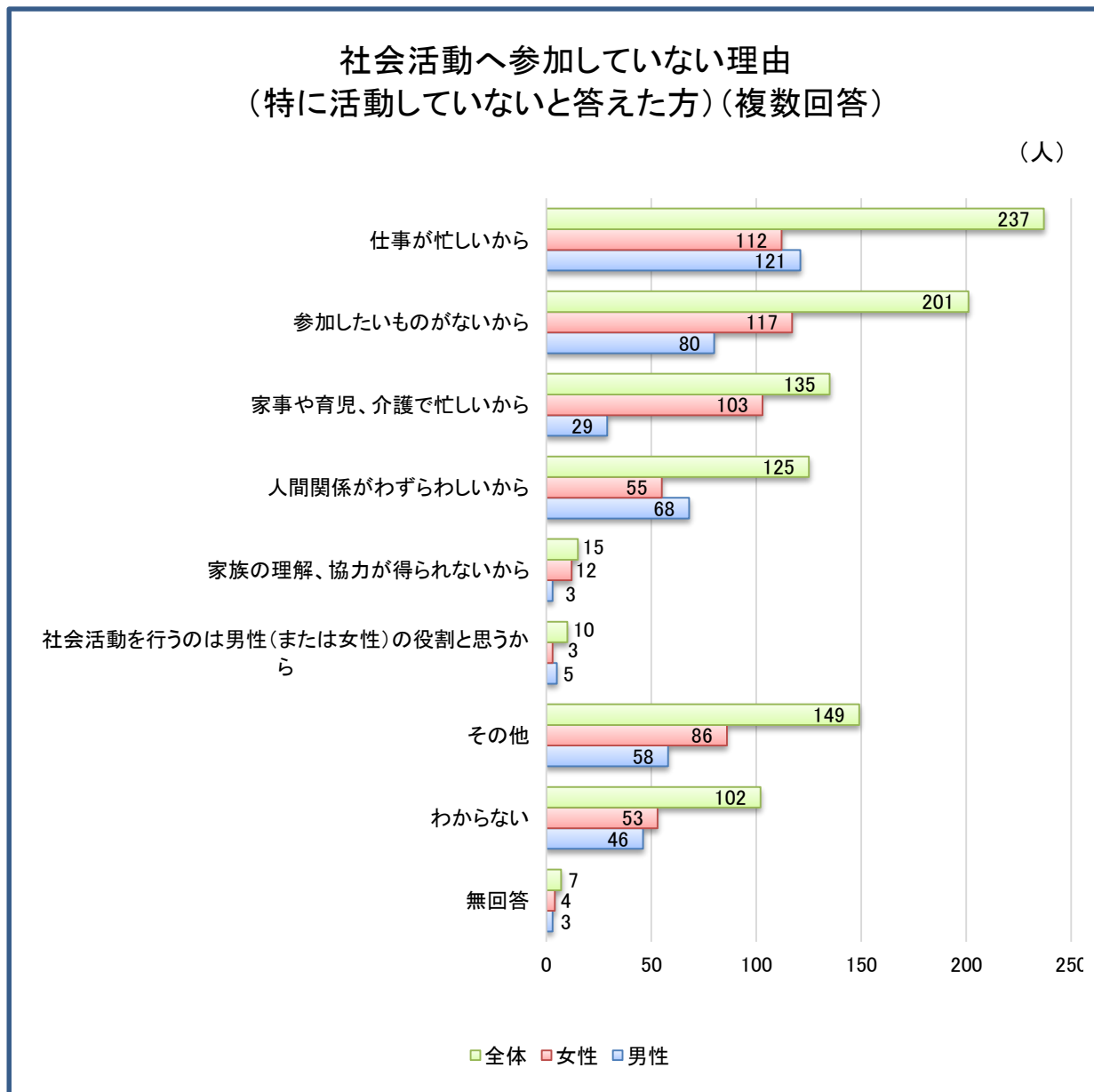


「特に活動をしていない」と応えた人の割合は、63.5%（女性 63.6%，男性 59.7%）で、前回調査の 59.3%（女性 56.6%，男性 48.6%）と比較して、女性は 7.0 ポイント、男性は 11.1 ポイント、全体では 4.2 ポイント増加した。

⇒世代により社会活動に関われる状況にあるかどうか大きく異なるが、市民活動を活性化させる余力は十分ある。

問16 (問15で「8. 特に活動していない」と答えた方にお聞きします。)

活動を行っていない理由はなんですか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

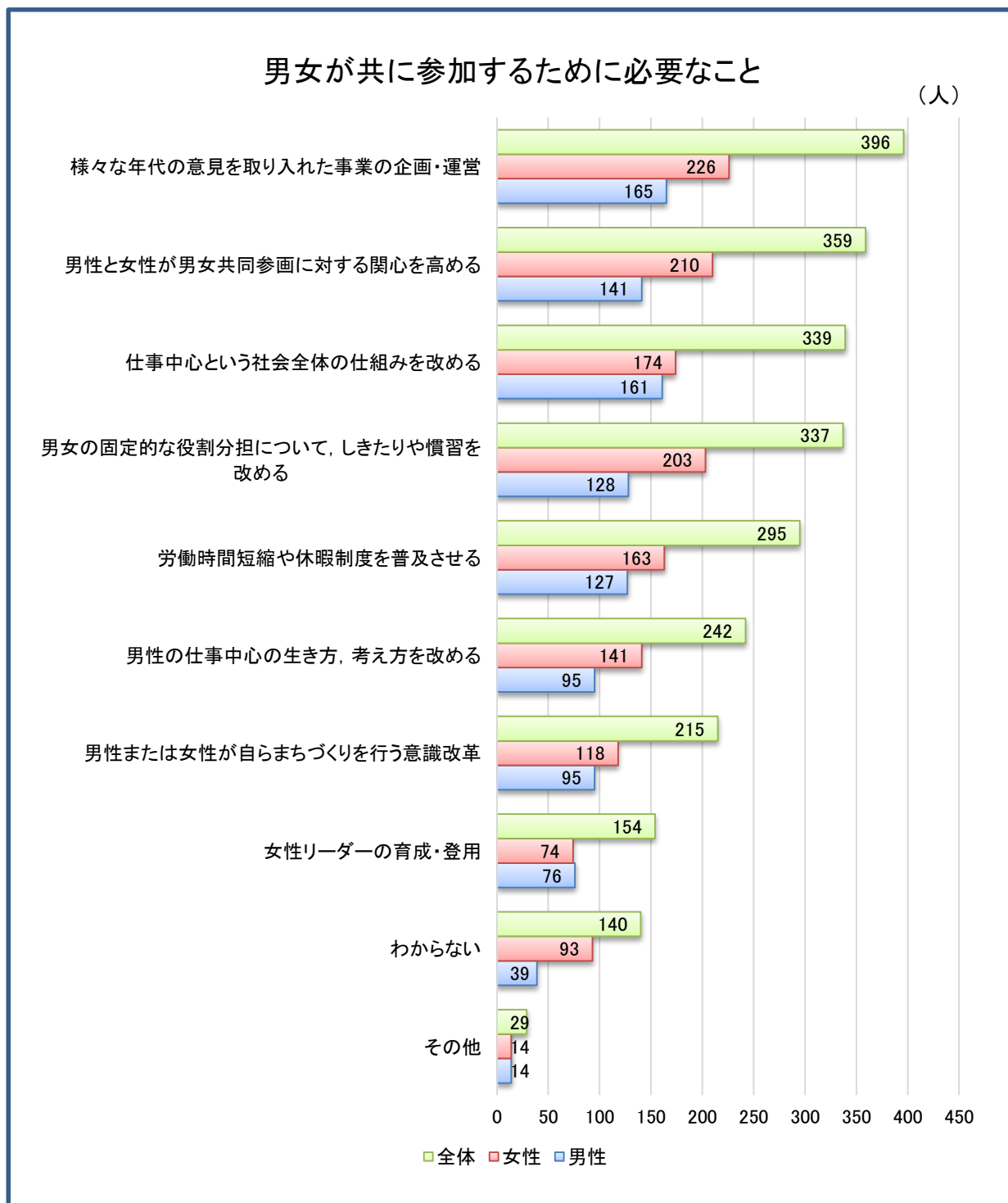


「特に活動していない」理由としては、「仕事が忙しい」が最も多く、次いで「参加したいものがない」となっている。女性では、「家事や育児、介護で忙しい」も同程度あがっており男性と比べてその割合は高い。

⇒「参加したいものがない」を理由にしているケースは、参加の意欲はあっても自分の興味・関心に属する活動が見つからないという場合が想定できる。さまざまな切り口の社会活動を情報発信したり提案することにより、社会活動への参加を促すことが必要である。



問17 あなたは、問15のような活動が、男女が共に参加し活発になるためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んで○印をつけてください。

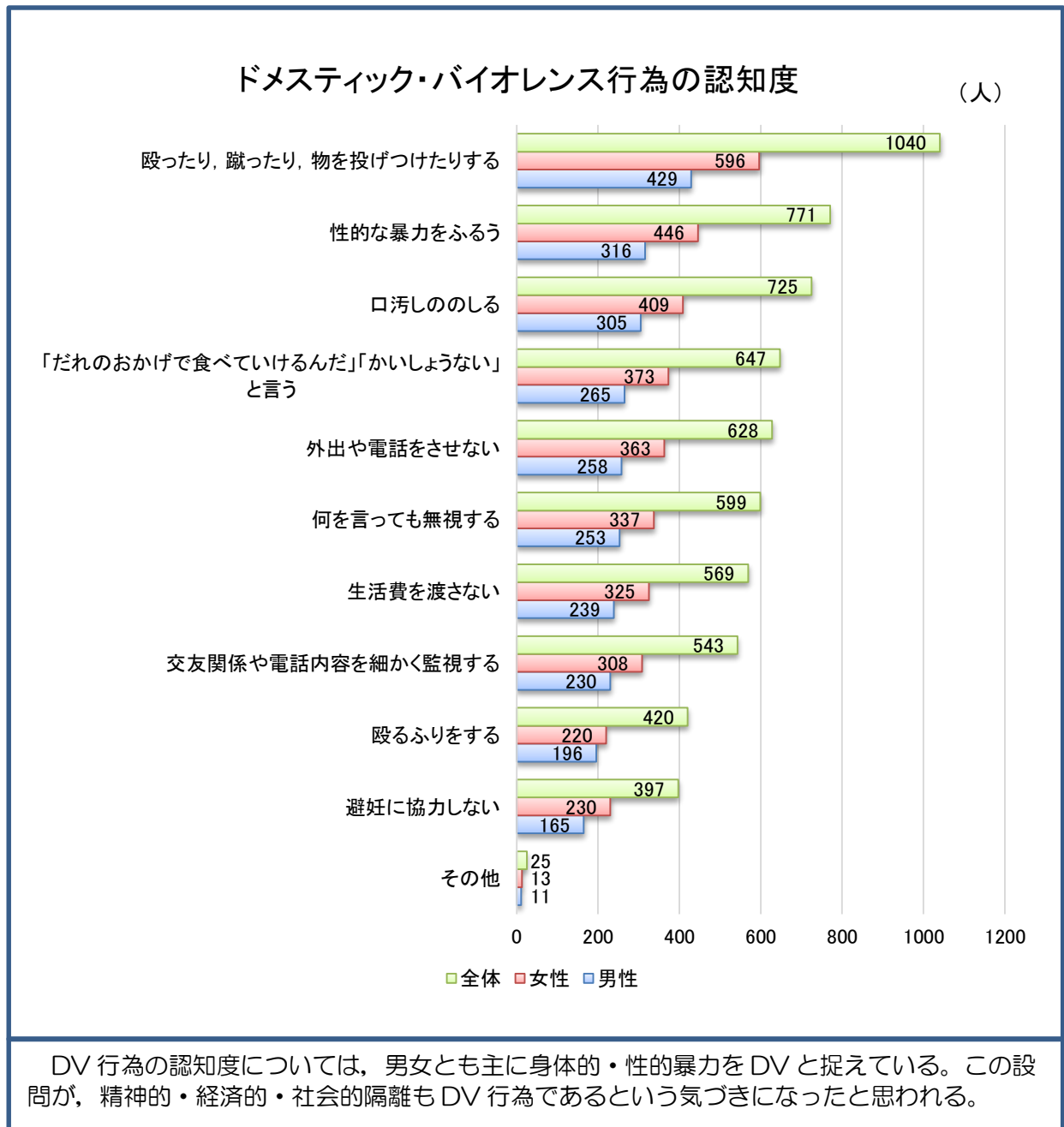


## 5 女性の人権について

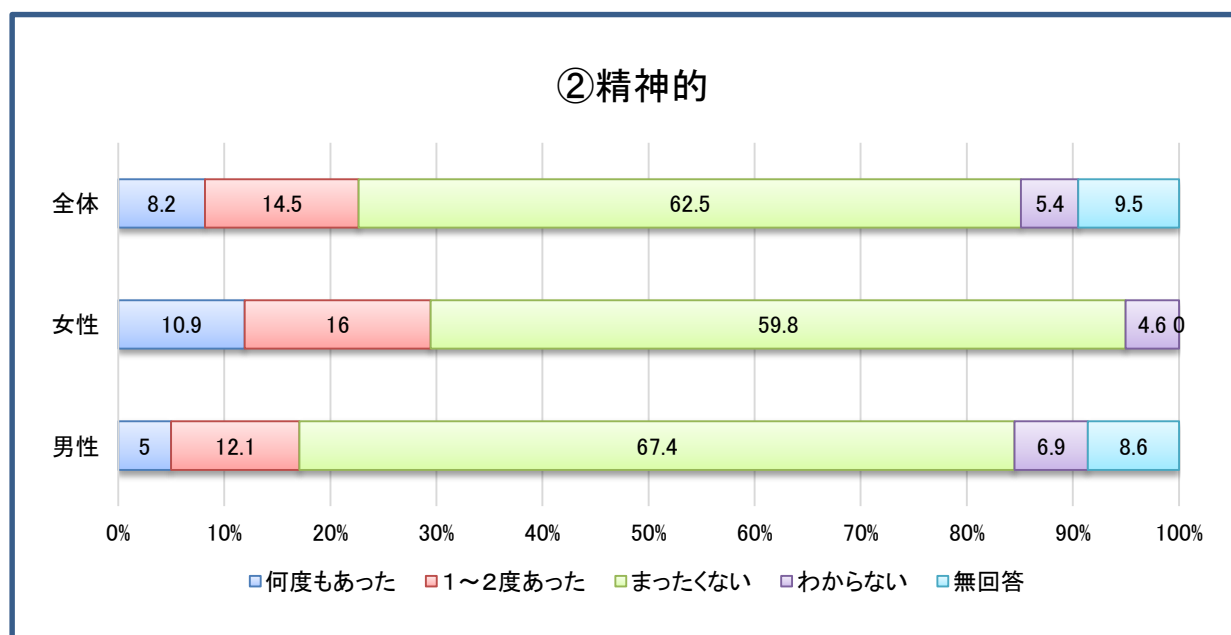
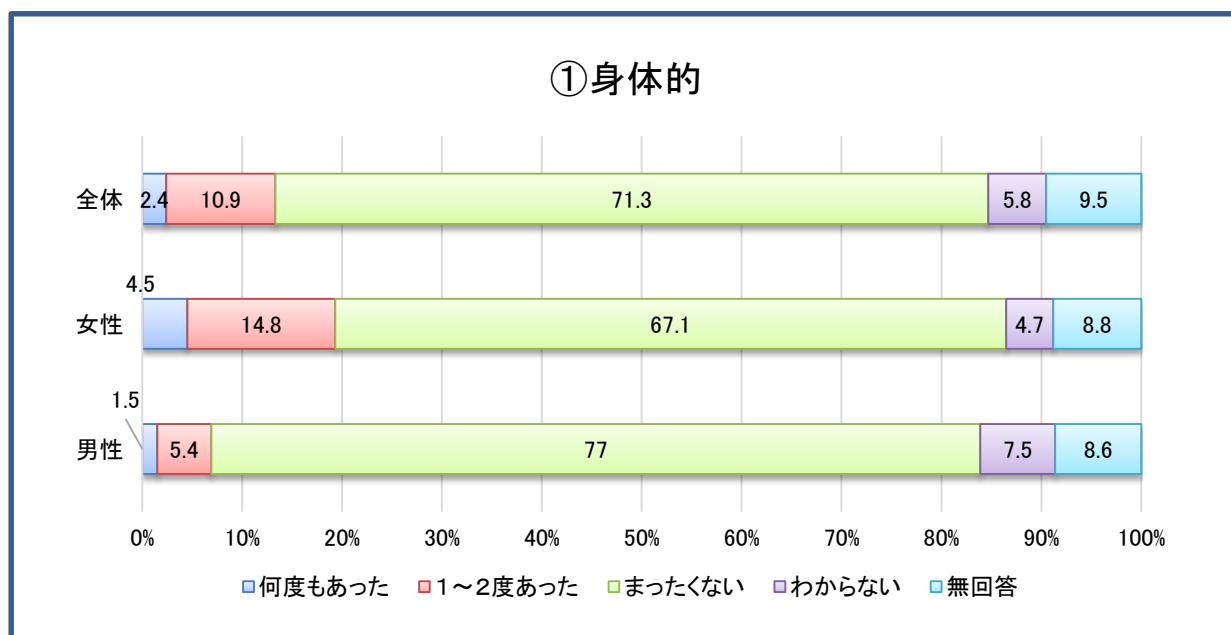
問18 「ドメスティック・バイオレンス(※)」(以下、DV)が、社会問題になっています。次にあげる行為がDVに当たることを知っていますか。あなたが知っているものを、次の中からすべて選んで○印をつけてください。

(※) ドメスティック・バイオレンス：

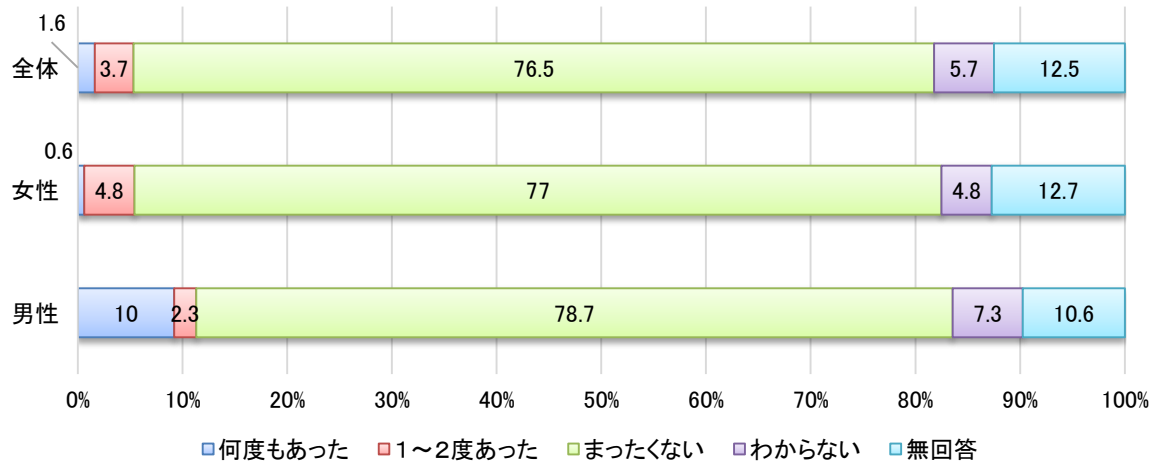
配偶者や恋人など親しいパートナーからの、身体的又は精神的な苦痛を与える暴力や言動のこと。



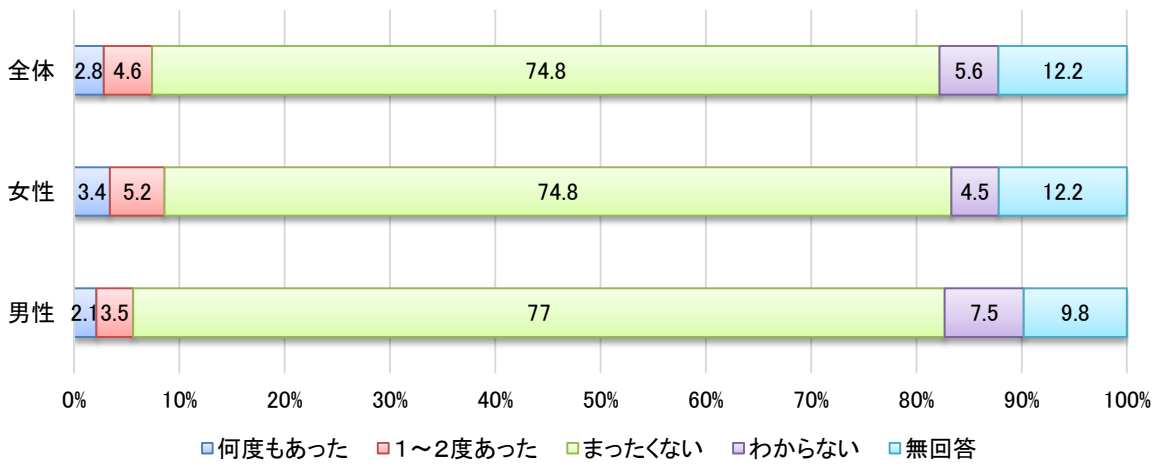
問19 あなたはこれまでに、配偶者や恋人などから問18の事例のようなDVをされた経験がありますか。各項目ごとにそれぞれ1つ選んで○印をつけてください。



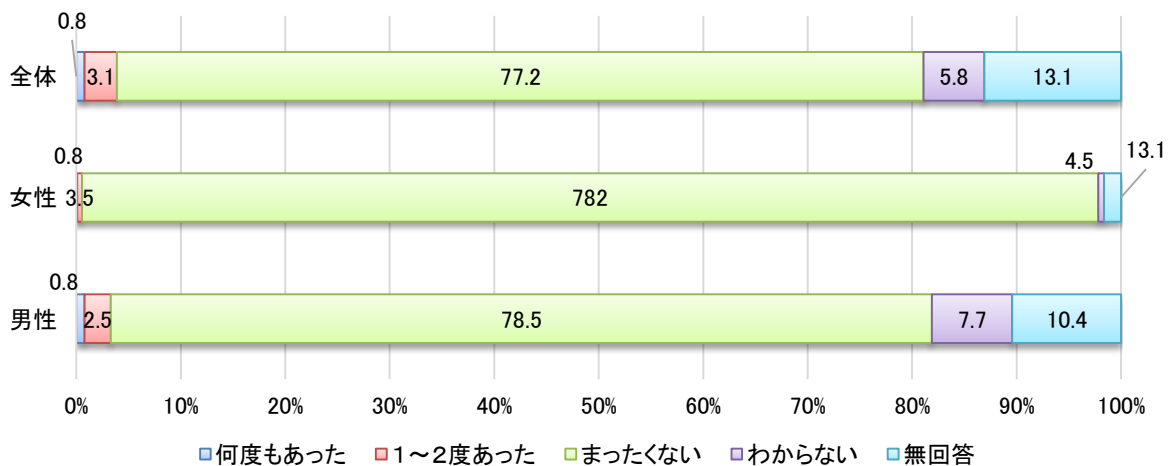
### ③性的



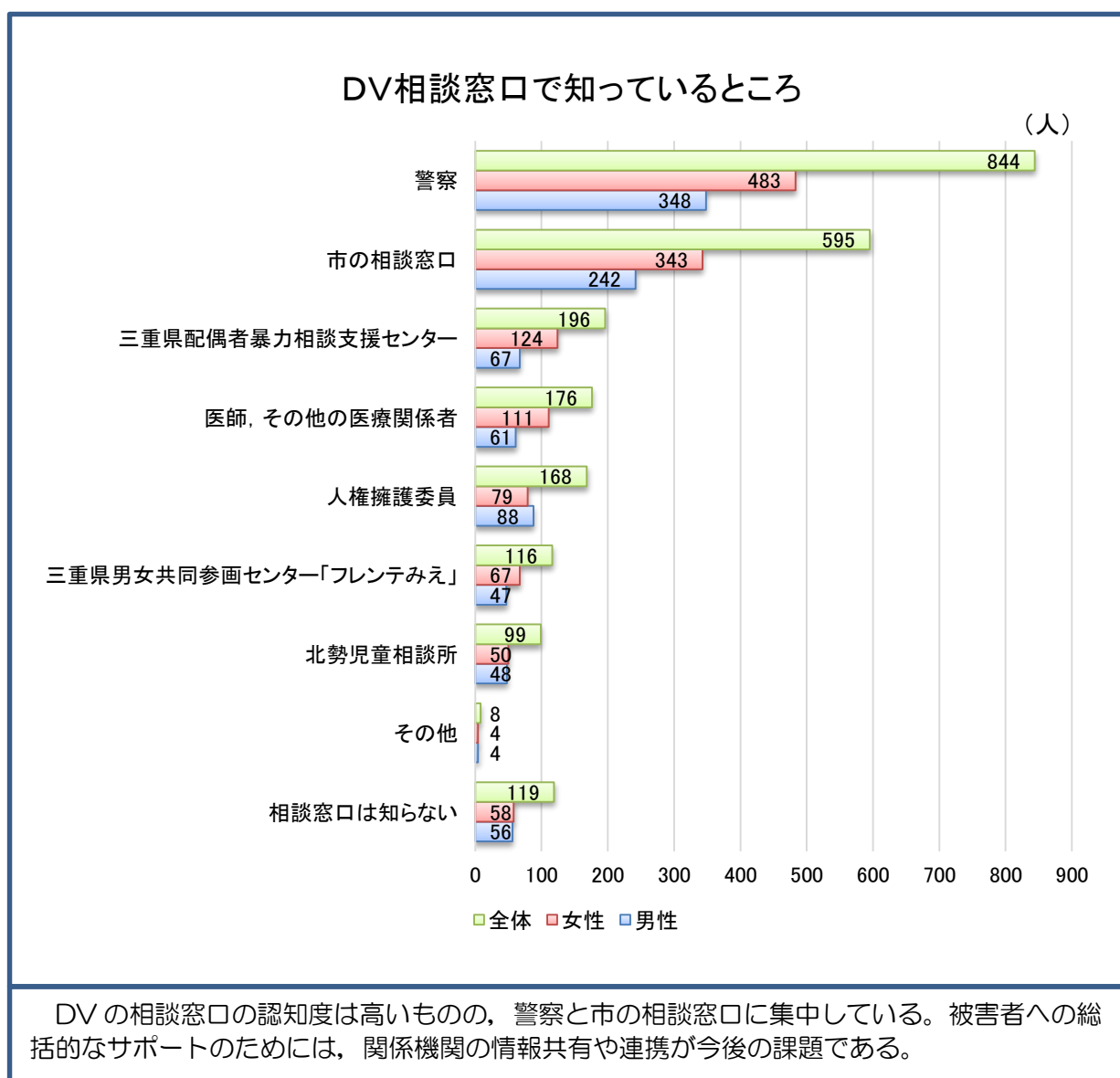
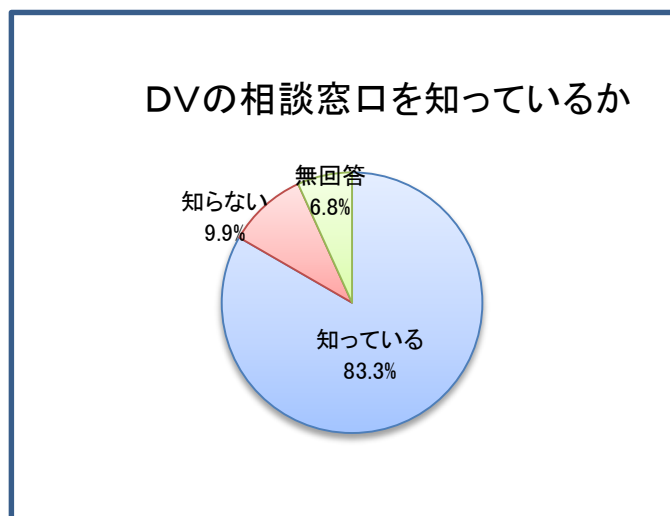
### ④経済的



### ⑤社会的隔離



問20 DVを受けたときに相談できる機関や関係者で、あなたが知っているものがありますか。あなたが知っているものを、次の中からすべて選んで○印をつけてください。

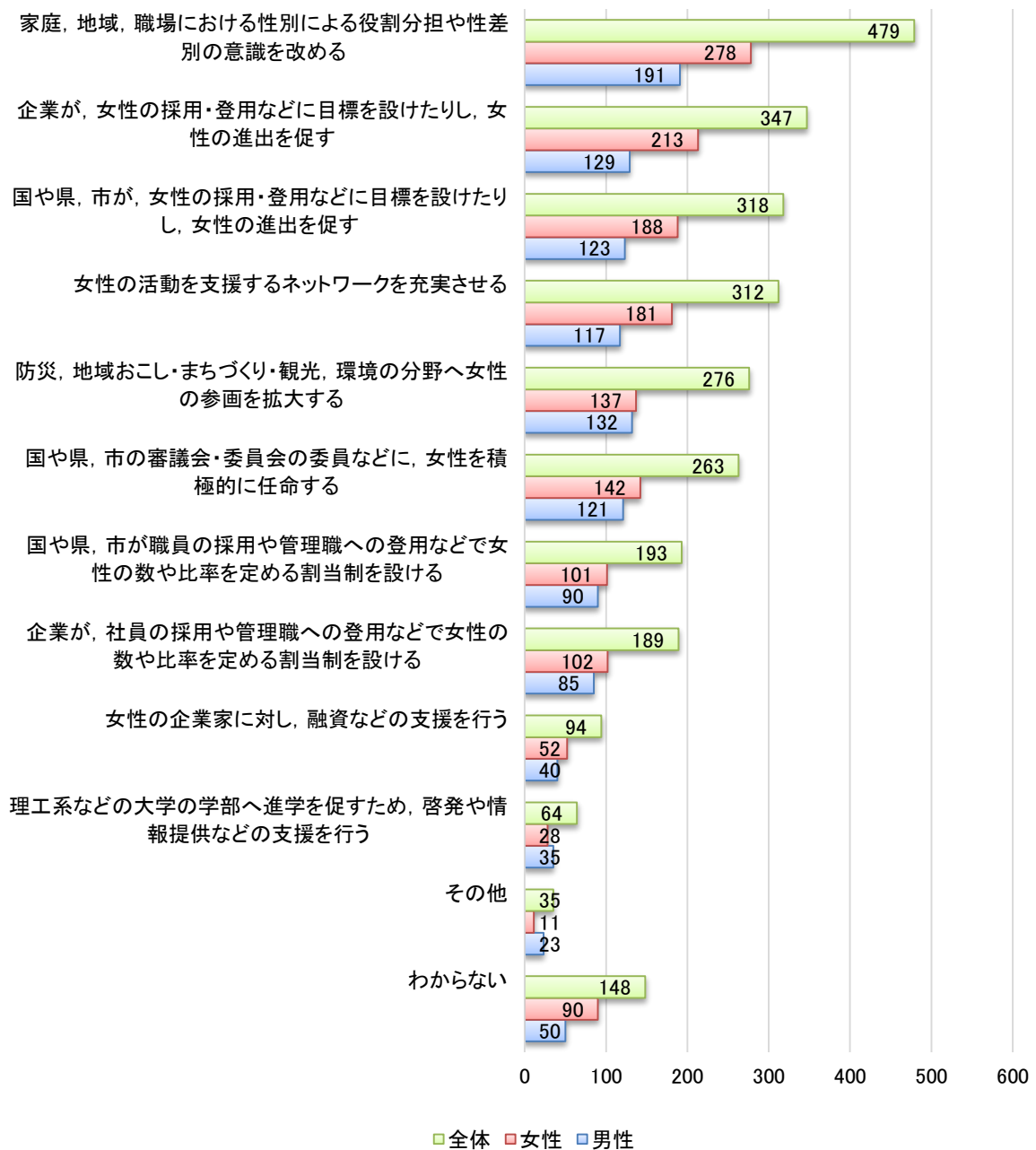


## 6 男女共同参画社会について

問21 あなたは、女性があまり進出していない分野に女性が進出するためにはどうすればよいと思いますか。次の中からあてはまるもの3つ選んで○印をつけてください。

### 女性が進出していない分野に進出するためにはどうすればよいか

(人)



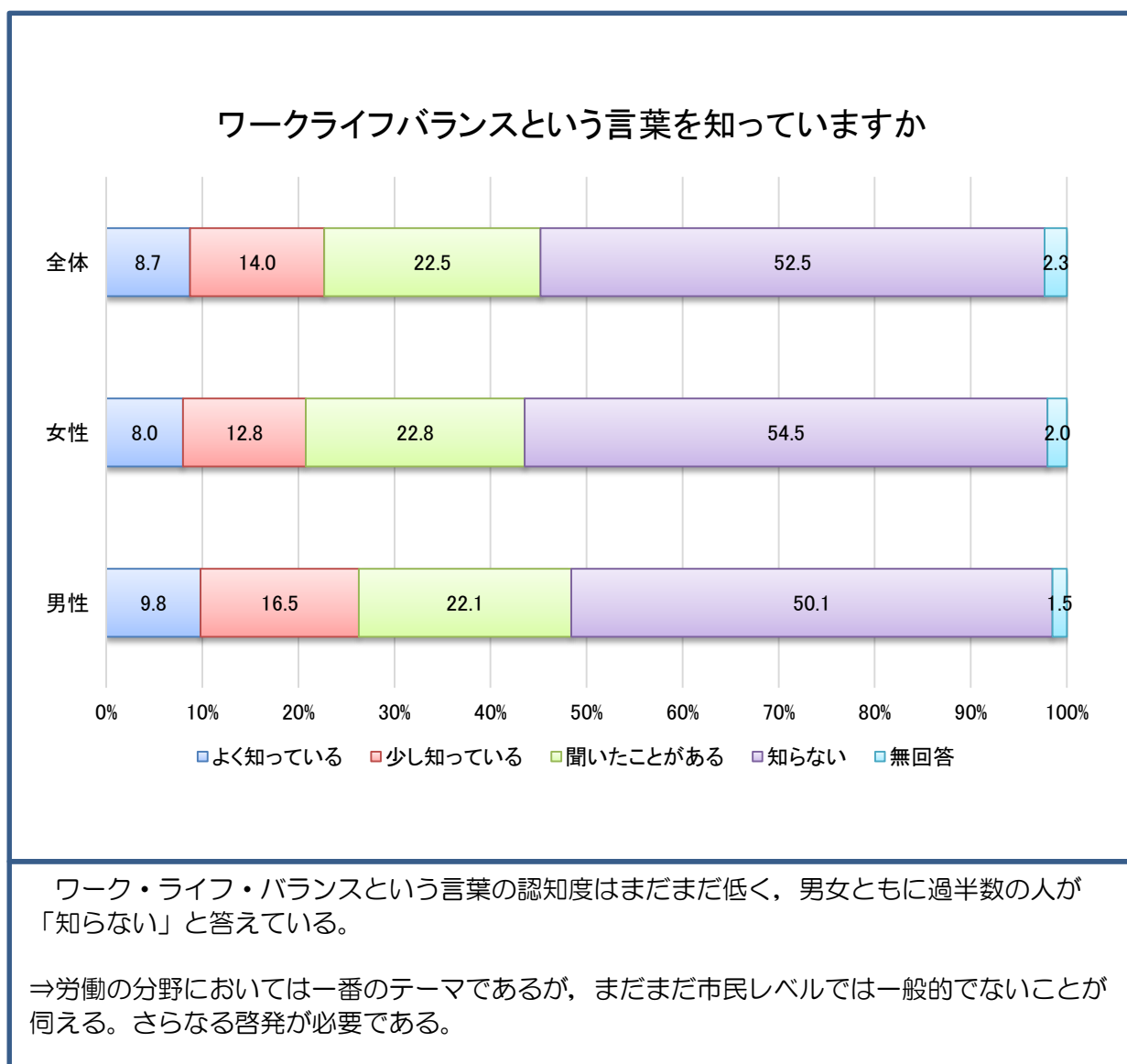
女性の進出を促進するためには、まずは固定的な性別役割分担意識の変革、そして、行政や企業における積極的な女性登用の仕組みづくりが必要であるとする意見が多い。

問22 あなたは、ワーク・ライフ・バランス（※）という言葉をご存じですか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

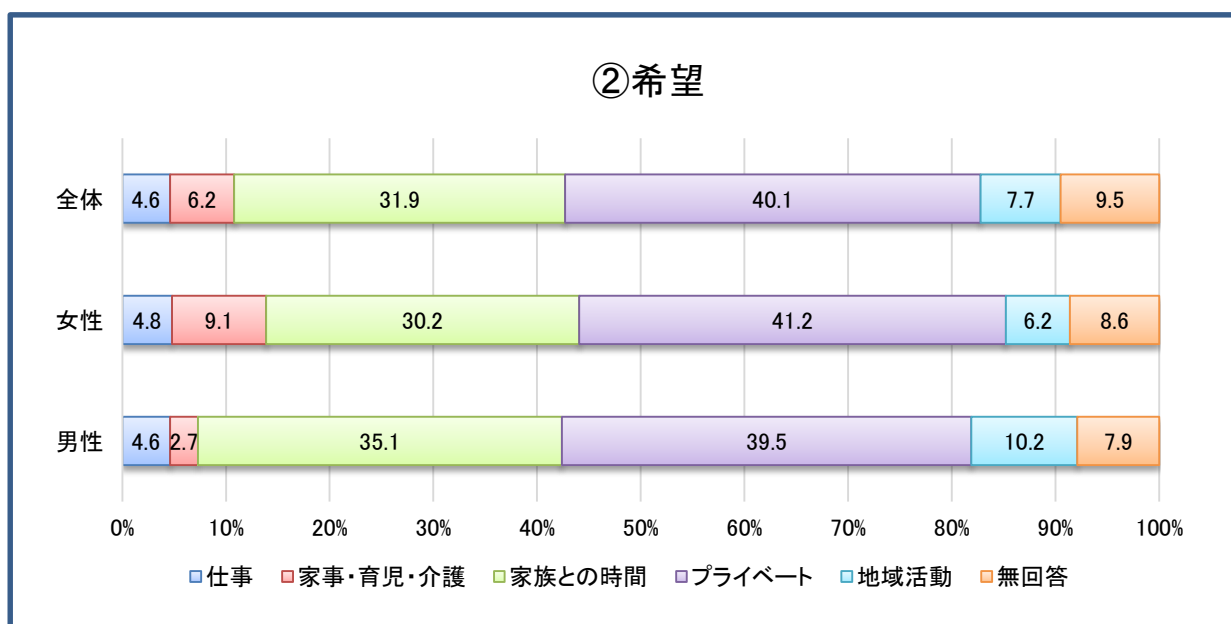
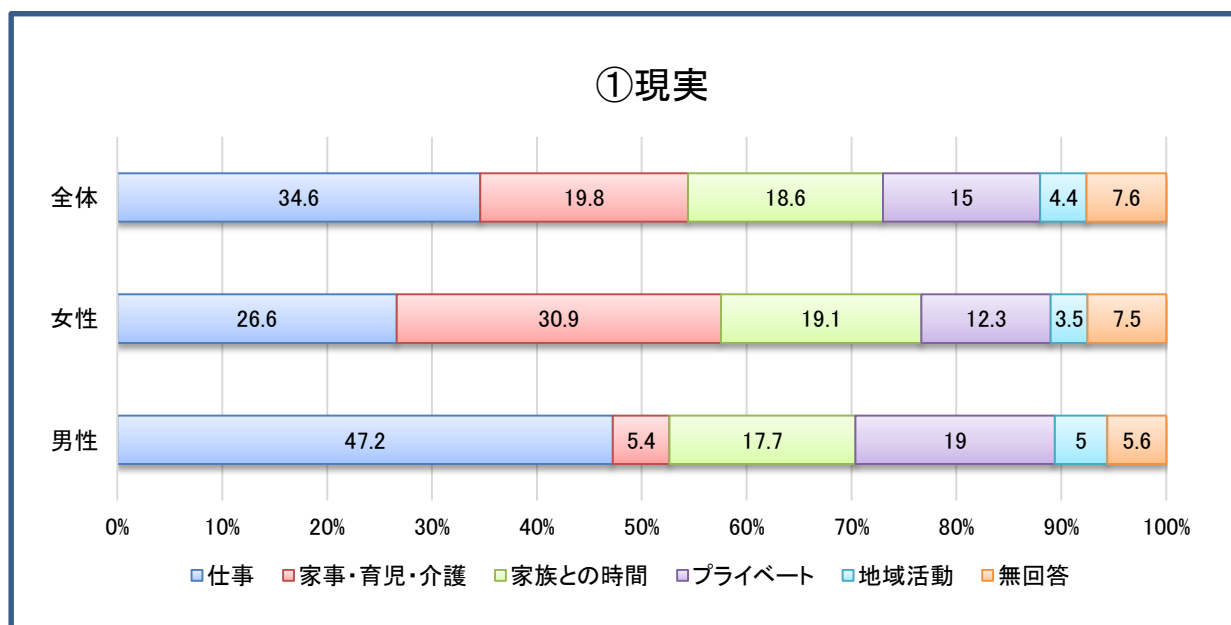
（※）ワーク・ライフ・バランス：

「仕事と生活の調和」と訳され、簡単にいうと、仕事だけではなく私生活も充実させることにより、仕事と私生活のバランスを保つことです。

ワーク・ライフ・バランスが実現した社会とは「一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方（働き方）が実現できる社会」のことをいいます。



問23 生活の中での、仕事、家事・育児・介護、家族との時間、プライベート、地域生活の優先度についてお伺いします。あなたが「現実」に最も優先しているものと、本当は最も優先したい「希望」のものについて、それぞれ1つ選んで、○印をつけてください。

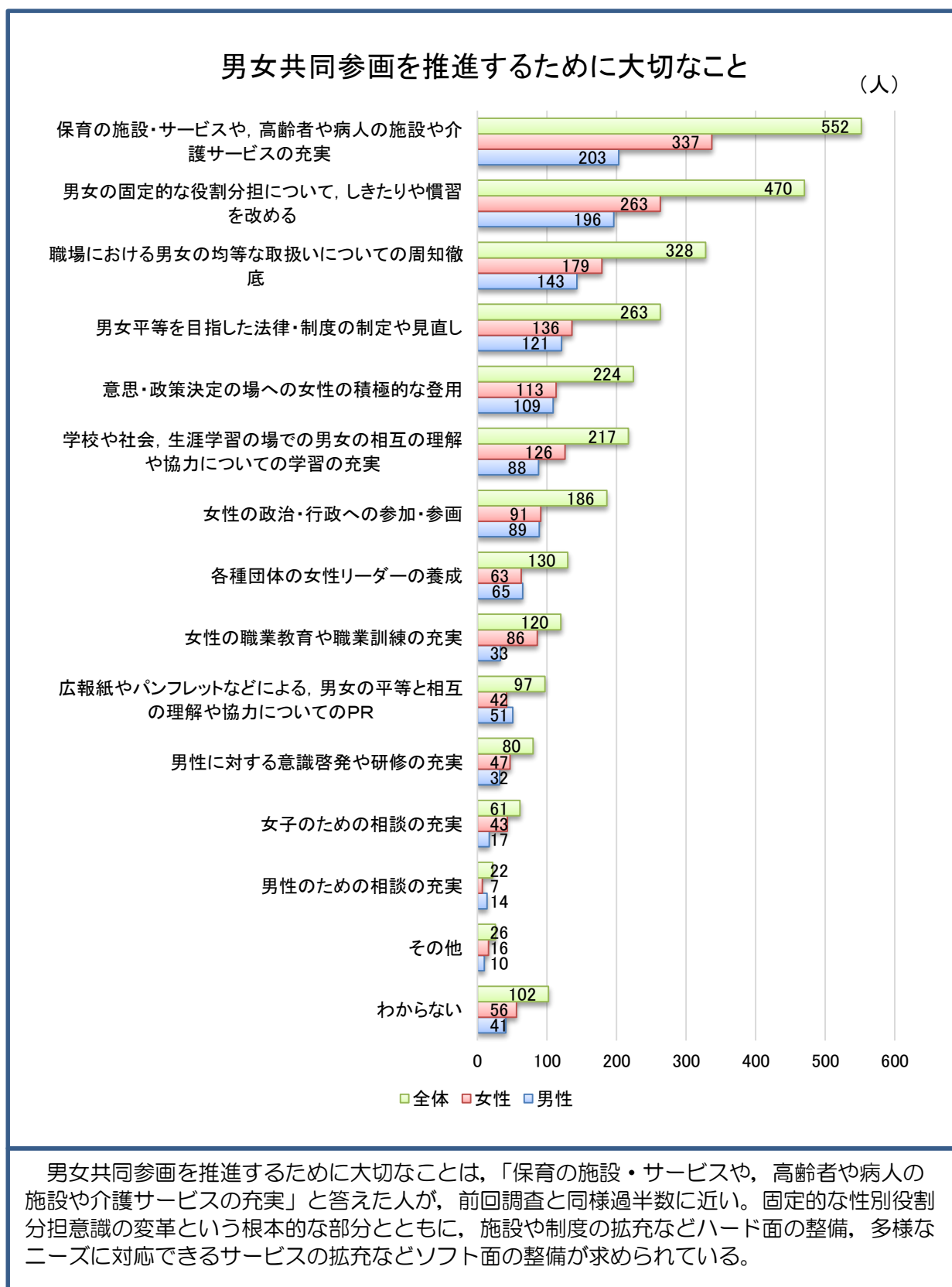


生活の中で、「家族との時間」や「プライベート」を最も優先したいと希望しているものの、現実には男性では「仕事」、女性では「家事・育児・介護」が最優先されている。

⇒男女ともに、ワーク・ライフ・バランスについての認識を深めるとともに、それを支える制度の拡充や運用の仕組みづくりが必要である。

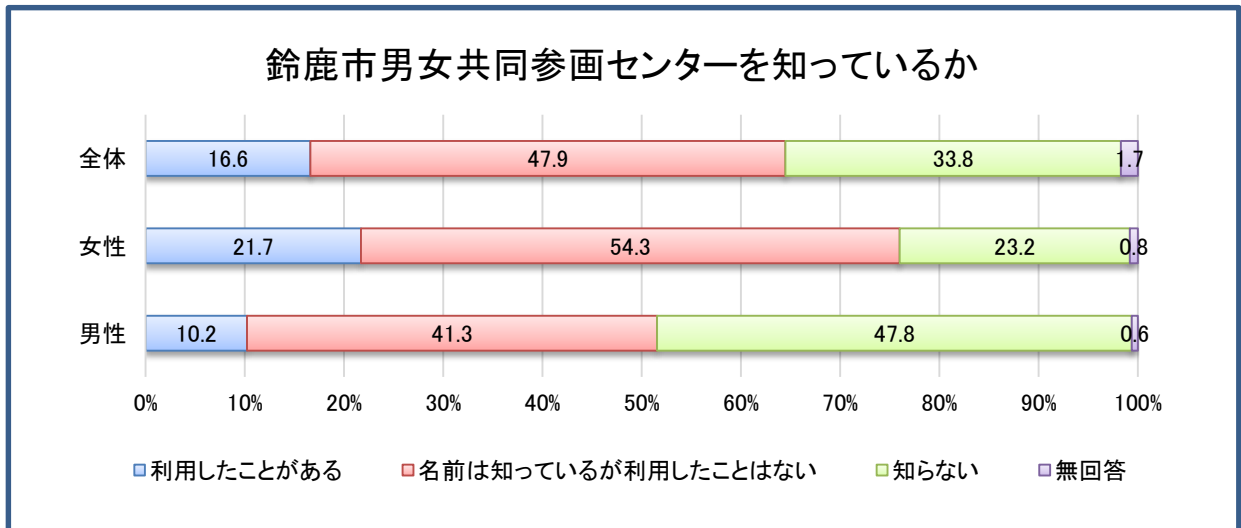


問24 男女共同参画社会を実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで選んで○印をつけてください。

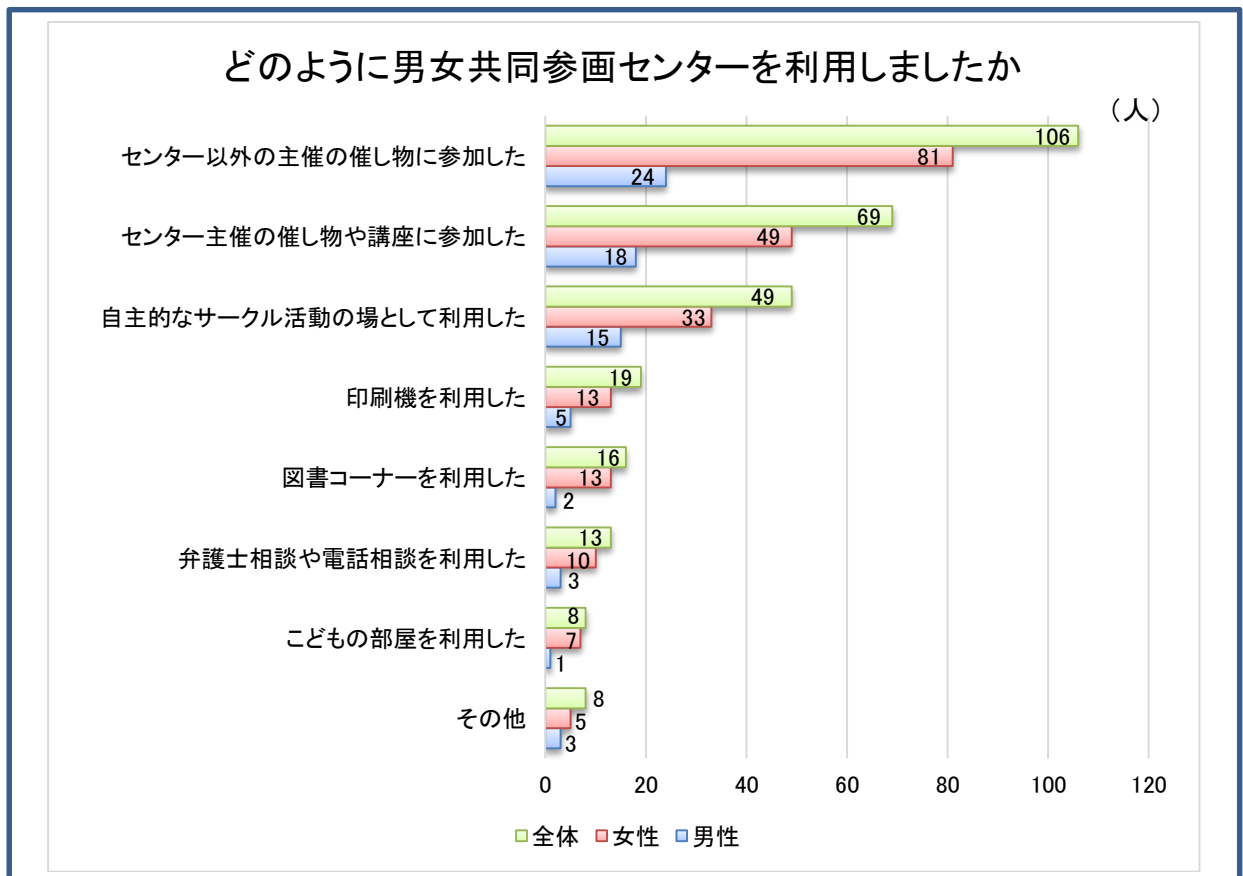


## 7 「鈴鹿市男女共同参画センター」について

問25 あなたは、「鈴鹿市男女共同参画センター（愛称：ジェフリーすずか）」をご存じですか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

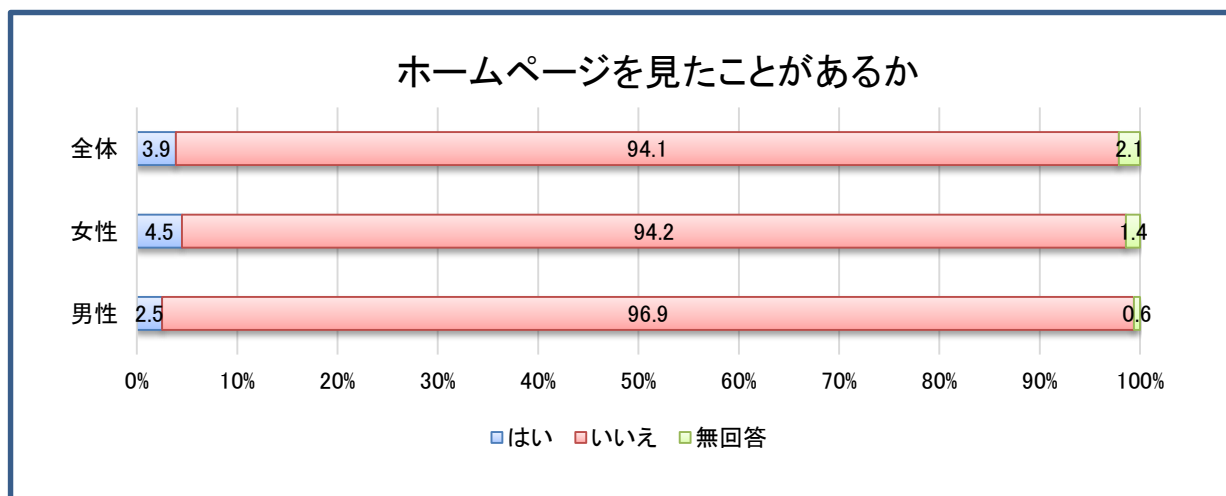


問26 （問25で「1. 利用したことがある」と答えた方にお聞きします。）  
 あなたはどのようなかたちで「鈴鹿市男女共同参画センター」を利用しましたか。  
 次の中からあてはまるものすべて選んで○印をつけてください。

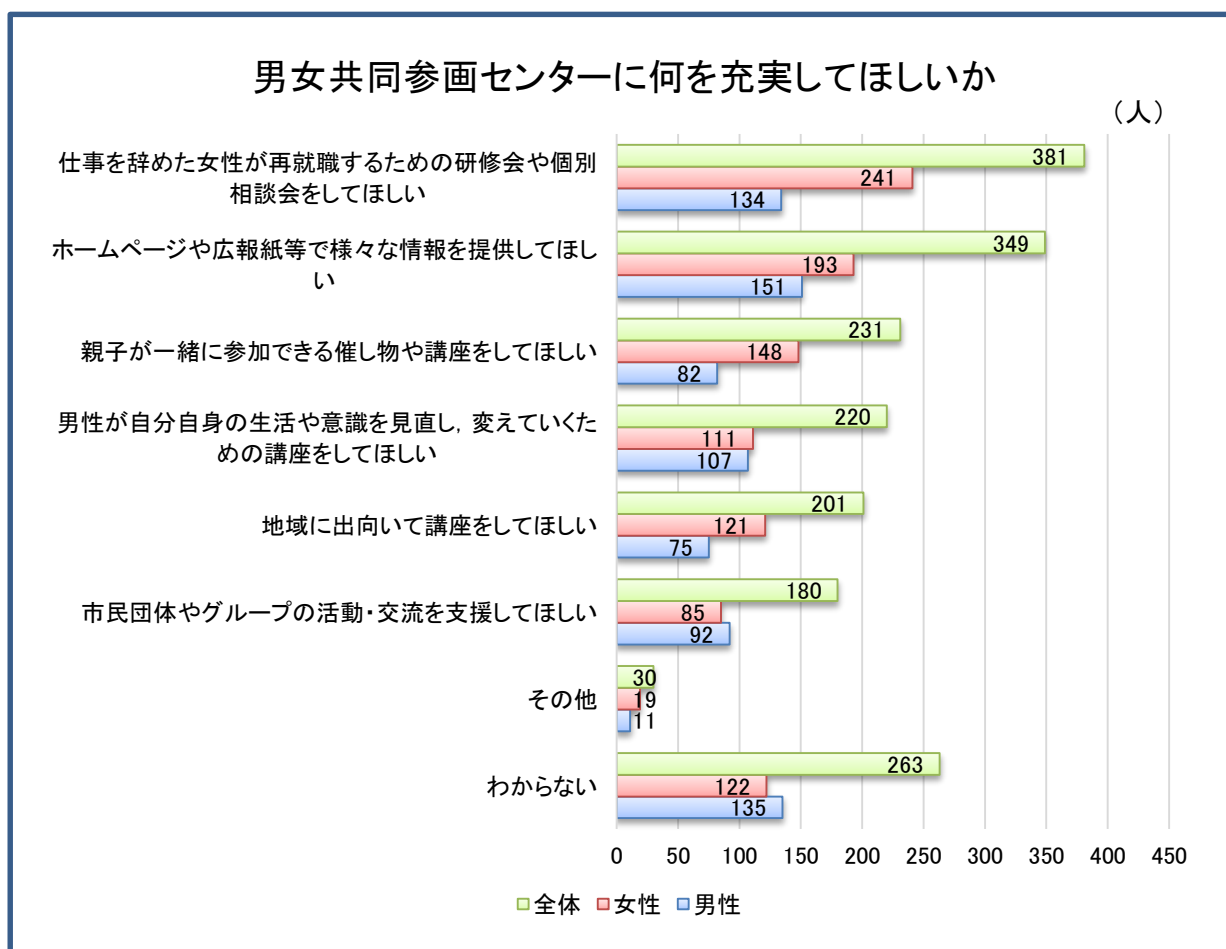


問27 あなたは、「鈴鹿市男女共同参画センター」のホームページ（※）をご覧になったことがありますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

（※）ホームページ：http://www.danjokyodosankaku.city.suzuka.lg.jp



問28 今後、男女共に利用できる施設として、「鈴鹿市男女共同参画センター」に何を充実してほしいと思いますか。次の中からあてはまるものすべて選んで○印をつけてください。



問29 あなたは、鈴鹿市が平成24年12月に「男女共同参画都市宣言」を行ったことを知っていますか。次の中から1つ選んで○印をつけてください。

